

平成29年度 日本電子専門学校 第一回学校関係者評価 報告書

評価対象期間 自：平成28年4月 1日
至：平成29年3月31日

平成29年7月

学校関係者評価委員会

目 次

I	学校関係者評価の概要と実施状況	3
	1. 学校関係者評価の目的と基本方針	3
	2. 学校関係者評価委員名簿	4
	3. 学校関係者評価委員会の実施状況	6
	4. 学校関係者評価（自己評価結果）の評価の仕方	7
II	学校関係者評価報告書の見方	9
III	学校関係者評価委員会評価結果報告書	10
	1. 総評	10
	2. 項目別評価結果	
	教育重点項目	
	重点項目 1	11
	重点項目 2	13
	重点項目 3	14
	評価項目の達成及び取組状況	
	(1) 教育理念・目的・育成人材像等	16
	(2) 学校運営	18
	(3) 教育活動	20
	(4) 学修成果	22
	(7) 学生の募集と受け入れ	24
	(8) 財務	24
	(10) 社会貢献	25
	(11) 国際交流	26
	総合評価【学校の改善に資するご意見】	27

IV 学校関係者評価委員会 議事録 30

- 1. 全体会自由意見 33
- 2. 分野別分科会 35

議事録

- ① IT・Web 分野分科会 36
- ② セキュリティ分野分科会 42
- ③ ビジネス分野分科会 44
- ④ 電気分野分科会 47
- ⑤ 電子分野分科会 50
- ⑥ ゲーム分野分科会 54
- ⑦ アニメーション分野分科会 57
- ⑧ デザイン分野分科会 59
- ⑨ CG 分野分科会 62

I 学校関係者評価の概要と実施状況

1. 学校関係者評価の目的と基本方針

1) 目的

日本電子専門学校における学校関係者評価の目的を、以下のように定める。

- ①自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価をおこない、自己評価結果の客観性・透明性を高める。
- ②生徒・卒業生、関係業界、専修学校団体・職能団体・専門分野の関係団体、中学校・高等学校等、保護者・地域住民、所轄庁・自治体の関係部局、在学生など、専修学校と密接に関係する者の理解促進や連携協力による学校運営の改善を図る。

2) 基本方針

日本電子専門学校における学校関係者評価は、『専修学校における学校評価ガイドライン』に則って行うことを基本方針とする。

3) 委員会運営

平成 29 年度における学校関係者評価委員会を以下のように年 2 回の開催とする。

添付：自己点検評価／学校関係者評価

- ①第 1 回目(7 月)に実施する委員会は、平成 28 年度(前年度)の運用実績に対する自己点検評価の結果を学校から報告する。
また、平成 29 年度に定めた、重点的に取り組むことが必要な目標・計画を発表する。
- ②第 2 回目(11 月)に実施する委員会は、平成 29 年度の運用に於ける実施状況の中間報告会として行う。

2. 学校関係者評価委員名簿

学校関係者評価委員として、卒業生、関係業界、職能団体、関係団体、高等学校、保護者、地域住民、在学生に委嘱した。

属性	氏名	所属	役職
企業	浅賀 央起	株式会社ぴえろ	執行役員 人事総務部 部長
	石本 則子	株式会社スタジオフェイク	代表取締役
	井沢 祐	株式会社スタジオフェイク	研究開発部 ディレクター
	内田 昌宏	株式会社ラック	常務理事 事業企画部・営業 本部 シニアコンサルタント
	川崎 紀弘	株式会社コンセント	
	舟山 大器	株式会社横浜環境デザイン	PV 事業部 営業戦 略室 室長
	乗浜 誠二	株式会社ナレッジコンスタント	代表取締役
	新 和也	オートデスク株式会社	メディア&エンターテインメント セールスマネージャー
	渡辺 登	合同会社ワタナベ技研	代表社員
	佐々木 伸彦	ストーンビートセキュリティ株式会社	代表取締役 チーフセキュリティアドバイザー
職能団体	満岡 秀一	一般社団法人 Open Embedded Software Foundation	理事
	宮井 あゆみ	CG-ARTS 協会	事務局長
	中台 浩正	東京商工会議所 新宿支部	事務局長
	原 洋一	一般社団法人コンピュータソフトウェア協会	理事・事務局長
	米井 翔	一般社団法人組込みシステム技術協会	研修委員会 委員
卒業生	谷 伸城	株式会社アプリケーションプロダクト	プロジェクトリーダー
	中山 秀昭	日本電子専門学校同窓会	副会長
保護者	二俣 久美		
	高橋 智子		
	藤本 香織		
	植村 美智子		
	清水 啓子		
	日比野 晴美		

高校教員等	藤浪 優	株式会社ウィザス	第二教育本部 教育運営部 ICT推進室 主任
	松下 秀房	目白研心中学校・高等学校	理事 校長
	勝間田 清一	日本大学生物資源科学部	非常勤講師
日本語学校	沼田 宏	株式会社インターカルト日本語学校	教務部長
地域住民	小澤 博太郎	百人町西町会	会長
在学生	秋永 美穂	高度コンピュータグラフィックス科	4年生
	三浦 稚子	Webデザイン科	1年生
	伊藤 史華	アニメーション科	1年生
	戸嶋 瑠奈	ネットワークセキュリティ科	1年生
	假野 紗希子	コンピュータグラフィックス科	1年生

3. 学校関係者評価報委員会の実施状況

1) 学校関係者評価委員会実施日時・場所

日時：平成29年7月3日(月) 13:30から17:00

場所：日本電子専門学校 ミニホール

2) 学校関係者評価委員会 進行状況

(1) 事務連絡(挨拶、配布資料確認) 13:30～

(2) 校長挨拶

学校関係者評価全体説明

(3) 評価方法説明

(4) 議長(委員長)選出

(5) 学校関係者評価委員会開始 13:45～

自己評価結果の解説とその評価

○教育重点項目

○教育理念・目的・育成人材等

○学校運営

○教育活動

・・・ 評価結果の判定(評価シート記入) ・・・

○学修成果

○学生の募集と受入れ

○財務

○社会貢献

○国際交流

・・・ 評価結果の判定(評価シート記入) ・・・

(6) 学校関係者評価の総評と意見交換 15:20～

(7) 分科会、学校見学 15:40～17:00

学校見学は希望者のみ実施

企業、団体の委員においては、以下の分野別に分科会を行った。

① IT・Web 分野分科会

② セキュリティ分野分科会

③ ビジネス分野分科会

④ 電気分野分科会

⑤ 電子分野分科会

⑥ ゲーム分野分科会

⑦ アニメーション分野分科会

⑧ デザイン分野分科会

⑨ CG 分野分科会

4. 学校関係者評価（自己評価結果）の評価の仕方

1) 自己点検・自己評価の実施

日本電子専門学校は、学校関係者委員会の実施に先立ち、『専修学校における学校評価ガイドライン』に則って、平成29年度自己点検・自己評価を実施した。自己点検・自己評価の点検項目は、平成28年度における「教育重点項目」3項目及び、「評価項目の達成及び取組状況」11分類63項目であり、合計66項目である。

『平成29年度自己点検評価報告書』には、各項目の自己点検実施状況を記載し、自己評価ポイント（適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1、無該当：0）を示した。また、①課題、②今後の改善方法、③特記事項を記載し、学校関係者評価委員に提出した。

2) 自己点検・自己評価結果の報告

学校関係者評価委員会では、『平成29年度自己評価報告書』を用いて、日本電子専門学校の各担当者が、学校関係者委員に対して、各項目の自己点検実施状況及び、自己評価ポイント、評価の根拠、課題、今後の改善方法等について説明した。当日は「前回課題とされていた項目」、「前回と評価が同じでも特別に報告を要する項目」、「前回と変わった項目」についてのみの報告し、評価をお願いした。

自己評価報告書 記述例

教育重点項目

1. 職業実践専門課程への対応

平成25年8月30日に告示された「職業実践専門課程」について、対象となる全ての学科の認定に向けた以下の対応を行った。

- (1) 教育課程編成委員会・・・各学科の専攻分野に関する企業および関係団体等の要請を十分に生かし、職業実践専門課程の教育を施すに相応しい実践的かつ専門的な教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法改善・工夫等を含む)について検討する委員会。

< 中 略 >

教育重点項目

	評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、 不適切：1、無該当：0				
重点-1	職業実践専門課程への申請は十分に行われたか	4	③	2	1	0

① 課題

[]

② 今後の改善方策

[]

③ 特記事項

[]

3) 自己点検・自己評価結果の評価

学校関係者評価委員は、日本電子専門学校の説明を受け、自己評価報告書の内容及び、自己評価結果の評価方法を理解した上で、日本電子専門学校が行った自己評価結果について「適切」または、「不適切」の2分法にて評価を行い、その理由や意見を「学校関係者評価委員会 評価記入シート」のコメント欄に記載した。

最後に、日本電子専門学校は、評価項目や学校・学科の改善に関する学校関係者委員の自由意見を聴取した。

学校関係者評価 評価記入シート 例		
教育重点項目		
重点項目1 職業実践専門課程への対応		
評価結果	<input checked="" type="radio"/> 適切	<input type="radio"/> 不適切
コメント欄		
<hr/>		
<hr/>		
<hr/>		
<hr/>		
<hr/>		

4) 分野別分科会の実施

学校関係者委員会の一環として、学科の教育内容や運営に対する意見を聴取することを目的として、分野別分科会を実施した。分野別分科会には、企業、団体の委員が参加し、日本電子専門学校からは、教育部署長ならびに学科長が参加した。

分野別分科会で意見を聴取し、今後の学校運営に反映させるとともに、教育課程に関する意見は、教育課程編成委員会に申し送ることとした。

分野の別は、以下の通りである。

- ① IT・Web 分野分科会
- ② セキュリティ分野分科会
- ③ ビジネス分野分科会
- ④ 電気分野分科会
- ⑤ 電子分野分科会
- ⑥ ゲーム分野分科
- ⑦ アニメーション分野分科会
- ⑧ デザイン分野分科会
- ⑨ CG 分野分科会

Ⅱ 学校関係者評価報告書の見方

1. 自己評価結果の結果集計

学校関係者評価委員 32 名が記述した評価記入シートより、評価基準の「適切」記入数、「不適切」記入数を集計しパーセント表示した。

2. 委員コメント

評価記入シートの委員コメント欄に、学校関係者評価委員が直接記入したコメントを項目毎にまとめた。

3. 分科会の意見

分野別分科会で意見交換された内容や、具体的な学科に対する意見・改善提案を議事録「学校関係者評価委員会分野別分科会」にまとめた。

Ⅲ 学校関係者評価委員会 評価結果報告

1. 総 評

本委員会は、日本電子専門学校独自の自己評価の結果について、学校関係者による評価を行い、自己評価結果の客観性、透明性を高め、理解促進、連携協力によって学校運営の改善に役立てていただくことを目的としています。

日本電子専門学校が、学校関係者評価委員会を開催するにあたり、関係する企業、業界団体、卒業生、保護者、地域住民、高等学校教員等（大学、日本語学校含む）、在学生が評価委員の委嘱を受け、評価委員はそれぞれの立場から評価を行いました。

また、今回より、新メンバーとして、企業 2 名（退任 1 名）、保護者 4 名、学生 4 名（退任 2 名）が加わり、総勢 33 名となりました。

（※ただし、当日は出席 32 名、欠席 1 名、出席 32 名中 2 名は代理出席）

当日の進行としては、まず、全体会にて、前回同様「前回課題とされていた項目」、「前回と評価が同じでも特別に報告を要する項目」、「前回と変わった項目」について報告がありました。事前に自己点検評価報告書を送っていただいていたため、問題点の洗い出しが明確になり、委員の皆様も評価し易かったのではないかと思います。

自己評価報告に基づく委員の評価につきましても、ほとんど項目で適切との評価がつけられており、取り組みの内容についても高く評価していました。

最後に、委員の皆様から自由にご意見を伺う時間を設けましたが、（今回は委員の数が増えたこともあり、時間の関係から全員の皆様に個々のご意見をお聞きすることができませんでした）、出されたご意見の中には、学校がすぐにでも改善に取り組まなければならない事項も含まれており、非常に有意義であったと思います。

今後、学校の課題を解決するために、評価委員の意見を反映して頂くとともに、日本電子専門学校及び専門学校全体の教育の質を高めるような取組みを継続し、実施して頂くことをお願いいたします。

我々評価委員は、引続き協力することをお約束し、学校関係者評価委員会評価報告書を提出するにあたっての総評と致します。

学校関係者評価委員会
委員長 舟山 大器

2. 項目別評価結果

教育重点項目

重点項目1 教育の質保証

評価結果	適切：29 90.6%	不適切：3
------	----------------	-------

委員コメント

- ① やや厳しい評価だと思うが、質の向上にはたゆまない努力する姿勢は大いに評価できる。特にディプロマポリシーの追及には不断の努力をかけてほしい。なお資格取得に関しては、アニメーション科、アニメーション研究科に色彩検定は疑問、デジタル化が進む中で、情報活用検定や情報デザインの資格のほう
が適切なのではないかと思う。(浅賀)
- ② オリジナル教材の作成も大切ですがその質の保証も大事です。レビュー体制の確立も並行して行って頂ければと思います。(外部の評価者を入れる。第三者評価など) (石本)
- ③ アニメ科、アニメ研究科の色彩3級はかなり数値がひくいですね。もう一つランク落としても、資格はとった方が良くもありません。(井沢)
- ④ 学科によってバラつきがあるものの、達成率は向上していると思うので、着実な実行をお願いします。(内田)
- ⑤ 「オリジナル教材」の定義をしておく必要があるのではないのでしょうか？
||
何をもちてオリジナル教材が必要でどういった教育的アドバンテージであるか？ (川崎)
- ⑥ 資格の種類の見直しも時代に合せて行ったほうがよい。(井上)
- ⑦ ・教育課程編成方針の策定 ・オリジナル教材・資格取得指導の徹底に取り組んでいる理由や目的が明確であり、かつそのことにより教育の質が保証されていることが良く分かった。特にオリジナル教材・資格取得指導については定量評価がされている点良い。ただ自己評価は厳しいのでは？と思います。(舟山)
- ⑧ 数値をきちんと取って評価しているので非常にわかりやすい。今後はその数字を元に何がネックになっているかをトラッキングしていけば次回は改善すると思う。(新)
- ⑨ CG科のオリジナル教材及び資格取得に対する数値にやる気が感じられない。(渡辺)
- ⑩ オリジナル教材作成の目標値と実績が学科により、だいぶ差がありますが特別な理由があるのでしょうか？
資格の選択は、どのような方法で行われているのでしょうか？学科に直接関係がないものがあるように見うけられます。(宮井)
- ⑪ 何にでも興味と好奇心が持てる機会と経験が在学中に出来ると社会人になった時の伸びに影響があると思います。資格取得率だけでなく、企業との連携率や

業務体験（インターン etc）率も指標になると理想的です。（満岡）

- ⑫学習成果については考える力、発想のきっかけを与えられるものを作り、解決能力のある学生をスパルタで育成して欲しい。（社会では、実務能力を厳しくみている）（中台）
- ⑬各学科の資格取得状況の見直しも必要かも知れない。（木田）
- ⑭ポリシーについては年々詳細なものとなり、高く評価できると判断します。オリジナル教材については、先生方の努力を評価できると判断します。また、教材改訂についても先生方の努力を評価できるとよりよいとも感じました。資格取得指導の徹底については、課題も分析できていることから、全体として適切と判断します。（米井）
- ⑮各ポリシーが達成できるよう、願っています。（勝間田）
- ⑯資格取得について、取ることが目標ではないと思うので、目的を明確にしていけば向上していくと思います。（藤浪）
- ⑰ほぼ適切としていいのでは？（松下）
- ⑱評価には厳しい気もしますが、目標、計画は素晴らしいと思いますので、地道に実現していただきたいです。（沼田）
- ⑲各学科の目標設定があいまいで、%だけ見ても分かりにくいです。目標を低くして100%なのか、厳しくして33%なのか（高橋）
- ⑳オリジナル教材化 未達の学科が減っていくよう期待しております。（清水）
- ㉑ ㉓で良いと思う。もう少し自校に自信をもってよいのでは？（日比野）
- ㉒「オリジナル教材」「資格取得」について定量的に評価されており、今後の改善法についても具体的であると存じます。（谷）
- ㉓資格取得の達成度向上を期待する。（中山）
- ㉔目標が明確です。・実習科目に対してのオリジナル教材 ・各学科の資格取得（最低限の質保証になる）（小澤）
- ㉕100%になった学科が3学科しかない。何か卒業までに1つ資格を取ることならば、その学科に関係しそうな資格をいくつかピックアップし、その中から自分に必要だと思う資格を生徒自身に選んでもらい取得するようにしてはどうだろうか。（秋永）
- ㉖資格取得率100%の3学科はオリジナル教材化の目標を達成しているので、オリジナル教材化を更に見直すべきだと思います。（三浦）
- ㉗オリジナル教材の割合において、達成と未達成が半分ということだが、未達成の学科の中には、大きく割合の差が出ている所が多いので、そこを重点的にしてもらいたい。資格についても達成度が低いので、過去問の配布等で改善して頂きたい。（伊藤）

重点項目2 新設科開発フレームの作成

評価結果	適切：31 96.8%	不適切：1
------	----------------	-------

委員コメント

- ① 関連企業とのインターシップや研修及び共同制作などを積極的に進めるのが良いのではないかと思います。(浅賀)
- ② 申し分ありません。AI、楽しみですですね。(石本)
- ③ 新設科開発フレームの作成により、今後は時代の変化ニーズに合った学科の新設が期待できる。(井上)
- ④ 学科での検討のみならず、外部からの指導を受け「新設学科」は企業の「新商品」開発と同じという考えでプロダクトアウトではなくマーケットインする姿勢が伝わってきた。AIシステム科の設立もうなづける。(舟山)
- ⑤ AI 学科はこのスピード感で新設したのは素晴らしい。(新)
- ⑥ 開発フレームを通じて出力された新設学科、流行の AI システム科だけ？ AI 時代の必要とされる AI 開発以外の仕事について、もっと考えるべきと考える。例えば電気工事系の仕事は AI 時代に、設備設営などで有効であると思われる。セキュリティもより集合的な人材育成で期待する。(渡辺)
- ⑦ AI 学科には期待しております。労働力への影響がマスコミに揶揄される中「真の AI によるセカイ」を学び、気づき、学生に正しい情報を発信して頂きたいです。(満岡)
- ⑧ 企業ならばプロジェクトチームを作り、新商品開発を行っているが、外部も入れるべき (NTT 技術研究所など) しかりエレクトロニクスの技術は日進月歩がさらに早いスピードで進んでおり、AI システム科も今は良いかもしれないが、商品価値寿命は長くないと思う。一歩先を考えた学科を作ることが、企業に応える学生の育成につながると思う。(中台)
- ⑨ 新しいフレームで新しい学科が創り出されたのは素晴らしい。(木田)
- ⑩ 良かったと思います。良い結果が出るとよいですね。(勝間田)
- ⑪ めざましい進歩だと思います。AI システム科に期待しています。(沼田)
- ⑫ AI は今後ますます注目される分野かと思います。新設の AI システム科にはとても期待しております。(高橋)
- ⑬ 新設科開発フレームにより開発された「AI システム科」の卒業生の活躍を期待しております。(谷)
- ⑭ 「AI システム科」の募集は楽しみです。(小澤)
- ⑮ 「AI システム科」、AI は最先端技術なので頑張ってもらいたいです。(秋永)
- ⑯ 工業専門学校として、時代の流れに添った新学科の作成はとても良いと思います。オープンキャンパスにも多くの見学者が来校されたということで期待しています。(三浦)
- ⑰ これから必要になってくるであろう科目になっていると思う。(伊藤)

重点項目 3 新入生アセスメントの作成・実施

評価結果	適切：32 100%	不適切：0
------	---------------	-------

委員コメント

- ① 新入生の理想と現実のギャップを丁寧にうめていくことがポイントかと思います。これは新入社員の理想と現実の仕事とのギャップに悩み、ドロップアウトする新人に悩む企業人事担当の悩みと通じるものがあると思います。(浅賀)
- ② たいへん良い取組みと考えます。アンケート結果に基づいて学校運営の向上に生かして下さい。また否定的な回答をした学生（マイノリティなど）のフォローアップをお願いします。(内田)
- ③ 細かく分析しており、学生側としても漠然としたキャリアデザイン志向や入学動機だったとして、学園生活を通して、学園からのフォローにより、卒業後の就職に向けた成長ができると思われる。(井上)
- ④ 単なるアンケート調査に留まらず、しっかりとした分析ができている点は大変良いと思われる。特にドロップアウトを未然に防ぐツールにしている点は評価が高い。(舟山)
- ⑤ 出席率、イベント参加率、学内行動など行動に何らかの要因が表れる気がします。データを分析し、AIで予測モデルを作成してみてもいいでしょうか？(満岡)
- ⑥ 因子1、因子2のグラフを見ると、学校に対する評価が、半分近くが低くなっているか？この点について学校側は学生の期待を裏切らないようにがんばって欲しい（内容を分析してみてもいいか？）（中台）
- ⑦ この新入生アセスメントはドロップアウト対策に有効だと感じた。(木田)
- ⑧ 学生生活に満足している結果が表れていると思います。また、今後の課題も把握できていますし、適切な評価と判断します。(米井)
- ⑨ 各方面から分析を行い、ドロップアウトが更に少なくなるよう期待したい。(勝間田)
- ⑩ アンケートの時期、結果、分析。結果の活用等すばらしい。(松下)
- ⑪ アンケートの実施、分析ともすばらしいと思います。分析の精度を上げるとともに、教育の質、向上へとつなげていただきたいと思います。(沼田)
- ⑫ ドロップアウトを未然に防ぐ為に良い取組みだと思います。(二俣)
- ⑬ ドロップアウトの理由は様々かと思いますが、とても残念に思います。(高橋)
- ⑭ ドロップアウトだけではなく、資格取得などの観点でも利用できるものと存じます。さらなる活用を期待しております。(谷)
- ⑮ 随時、学生の学習状況を把握し、より一層の展開を望む。(中山)
- ⑯ アンケート結果をドロップアウトの因果関係分析に使われていることは、大変有効だと思います。やはり、在学中の満足度向上の問題。(小澤)
- ⑰ ドロップアウトに陥る学生の特徴を知ることが、対策を立てる上で重要な

ことだと思えます。(三浦)

⑱ 回答率も高く、正確な数値が表れていると思う。(伊藤)

⑲ ドロップアウトしてしまう学生がキャリアデザイン指向も学校に対する評価も低いのは分かりましたが、全学生のうち、キャリアデザイン指向の高い学生は学校に対する評価が低いように見受けられましたので、それもまた別の問題ではないかと思いました。(假野)

評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目的・育成人材像等

1-1 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか

評価結果	適切：31 96.9%	不適切：1
------	----------------	-------

委員コメント

- ① クレドの周知徹底は時間がかかり厳しい問題ですが、とにかく続けることが肝要かと思います。(浅賀)
- ② 特に問題はないと思います。4つの柱に沿った進め方は良い。クレドカードの作成もユニクで継続している。(舟山)
- ③ 教職員の指針に取組みをされたのは素晴らしいことだと思います。(満岡)
- ④ 行動指針は職員が一丸となって学校を運営するものなので、全員が持つことになったのは良いことだと思う。(中台)
- ⑤ 教員の行動指針は内容もすばらしく、適切と判断します。(米井)
- ⑥ 理念通り、実践が行われているのではないか。(勝間田)
- ⑦ 教員の行動指標が定められたのはよかったです。クレドの作成もいいですね。(沼田)
- ⑧ 教員の成長は学生の成長に直結するため、継続的な努力を期待する。(中山)
- ⑨ 〈教員の行動指標〉4つの柱は教員の明確な行動指標となると思います。(小澤)
- ⑩ 学校全体でみるとできていると思いますが、学科ごとにみるとどうでしょう。全てのCG科の常勤の先生であてはまる先生は少ないです。後輩などからも先生がよくないという話はよく聞きます。(秋永)
- ⑪ 正確に定められている。(伊藤)
- ⑫ 教職員の指針に取組みをされたのは素晴らしいことだと思います。(満岡)

1-2 学校における職業教育の特色は何か

評価結果	適切：32 100%	不適切：0
------	---------------	-------

委員コメント

- ① 机上での授業（知識教育）だけでなく、実習や外部コンテストの充実が専門学校の特長に拍車がかかると思います。(内田)
- ② 職業実践専門課程への取り組みが特に進んでいると感じられた。(舟山)
- ③ いち早く新しい分野へ注目するのは特色かと思います。(満岡)
- ④ 職業人として、知識、技能は既得していると会社はみているが、それにもまして就業態度が一緒にやっつけられるかみられる。社会人としてのマナーも教えて欲しい。(中台)
- ⑤ 分かりやすく整理されている。(木田)

- ⑥ 学生の最低限の質保証と教員の行動指針の明確化により職業教育の特色が色濃くでてくると思います。(小澤)
- ⑦ 明確に理解できる。(伊藤)

1-3 社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか

評価結果	適切：32 100%	不適切：0
------	---------------	-------

委員コメント

- ① 特に問題無いと思います。(舟山)
- ② プログラミングは総時間と経験、センスで実力が決まります。すでに経験をしている生徒が、今後多く出てくると予想され、タレント性を持つハイスキルメンバを育成するニーズは出てくると考えています。(満岡)
- ③ NEXT10 を掲げ、新しい学校像を定める、取り組みをしている点は、大事な取り組みだと思う。(中台)
- ④ 新設の AI 学科は、組込み業界としては特に期待したいと思います。(米井)
- ⑤ 大変そうだが、実現できると思われます。(勝間田)
- ⑥ 構想の実現に向け、具体的な行動をより充実させていただきたく思います。(沼田)
- ⑦ 「NEXT10」の確実な展開を望む。(中山)
- ⑧ 「あるべき姿」も明確なのでわかりやすい。(小澤)
- ⑨ 10 年後に向けて積極的な将来構想がうかがえる。(伊藤)

(2) 学校運営

2-6 目的等に沿った運営方針が策定されているか

評価結果	適切：32 100%	不適切：0
------	---------------	-------

委員コメント

- ①NEXT10の成功を期待しています。(内田)
- ②あるべき姿を具現化する施策が明確で、「NEXT10」の意義などが良くわかった。(舟山)
- ③中期ビジョンを共有することで、マイルストーンを定め解決して向上することができると思う。(中台)
- ④「あるべき姿」の具現化もわかりやすい。(小澤)

2-7 運営に沿った事業計画が策定されているか

評価結果	適切：32 100%	不適切：0
------	---------------	-------

委員コメント

- ①「5つの検討テーマ」と課題も明確で、何をなすべきかが分かり易いと思われる。(舟山)
- ②部署ごとにすべての事業を洗い出す。業務総点検を実施したことは大事なことだと思います。(小澤)

2-8 運営方針や意思決定機能は、規則等に明確化されているか

評価結果	適切：32 100%	不適切：0
------	---------------	-------

委員コメント

- ①実を伴った実効的な運営（人選、スキルセット、関係など）をお願いします。(内田)
- ②明確化されている為、問題ないと思われる。(舟山)
- ③運営組織、規則等有効に機能していると思われる。(小澤)

2-11 業界や地域社会に対するコンプライアンス体制が整備されているか

評価結果	適切：32 100%	不適切：0
------	---------------	-------

委員コメント

- ①特に問題無いと考えます。(舟山)
- ②迅速な危機管理対策本部の設置は素晴らしいと思います。(満岡)
- ③内部監査制度を設ける際に、法の順守は当然だが、第一に学生にとって良い方策なのかという観点も加えて欲しい。20才前後の大人ではあるが、大人になりきれていない学生もいると思うので。(中台)

- ④内部監査の人選は難しいかと思うが、速やかに選任進めていただきたい。
（木田）
- ⑤緊急対策の組織で対応できて良かったです。（勝間田）
- ⑥個人情報に関すること。外部からの不審者侵入に対する対策等はどうなっているのかな？（松下）
- ⑦規程集も明確に定められており、職員に周知されていると思われます。
（小澤）

(3) 教育活動

3-14 教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針が策定されているか

3-15 教育理念、人材育成像や業界ニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育達成レベルや学修時間の確保は明確にされているか

評価結果	適切：32 100%	不適切：0
------	---------------	-------

委員コメント

- ①策定したポリシーに是非、血を通わせてください。(内田)
- ②3-14に関しては策定の途中ということもあり、自己評価は正しいと考えられる。(舟山)
- ③学園生活ガイドは学生にとってもロードマップであり、大事なもののなので、毎年見直して欲しい。(中台)
- ④早期の策定を望む。(中山)
- ⑤「学園生活ガイド」で学生に周知されていると思います。(小澤)
- ⑥評価が“3”である理由が明確である。(伊藤)

3-16 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか

評価結果	適切：31 96.9%	不適切：1
------	----------------	-------

委員コメント

- ①世の中の動向、社会からのニーズに追従できる様、スピード感をもった検討をお願いいたします。(内田)
- ②各ポリシーの策定が途中と言う点においては、正しい評価と思われるが、現状でも充実的な編成がされていると思います。(舟山)
- ③2年間の限られた時間で積上式の教育よりも、削ぎ落として疎結合な要素を学習しても良いと考えます。後に足りないパーツを組みあげてパズルを作るイメージです。(満岡)
- ④時間のボリュームを大きさで表現するなど、工夫がなされておりわかりやすい。(中台)
- ⑤現状のカリキュラムもカリキュラムポリシーに基づいた一貫性のあるカリキュラムを構築しようという取組は適切に実施されていると思う。(木田)
- ⑥必要な技術要素は抜け漏れなく(バランス良く)網羅されていると思います。(米井)
- ⑦教育の面で学校評価に繋がることなので、資格取得率の向上により一層祖努力して頂きたいところだと思います。(二俣)
- ⑧定期的に各学科のカリキュラムの見直しは必要になるのだと思います。(小澤)
- ⑨私の学科になってしまいますが、15コマあるうち先生から指導がある授業が3コマ、グループ制作が4コマ。その他8コマは自習です。卒業制作等

で自習なのはわかりますが、4年になってから覚える知識がまったくないのは残念だと思います。(秋永)

⑩不明な点の確立への動きが見える。(伊藤)

3-25 関連分野における業界との連携において優れた教員(本務・業務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか

評価結果	適切：32 100%	不適切：0
------	---------------	-------

委員コメント

- ①人財の確保、育成は学校あるいは企業にとって最重要かつ超長期的な経営課題であると考えます。不断の努力を持って継続されることを希望します。(浅賀)
- ②どの分野が満足、不満足として判定されているのか(分野毎の出来、不出来)を明示して頂けたらと思います。(石本)
- ③専属教員のコーディネーター化、プロデューサー化が必要になるのかもしれませんがね。(本校の専門性、タイムリー性は学外教員がたんぼ)(川崎)
- ④特に問題はないと思います。より向上を目指してください。(舟山)
- ⑤企業は今学生を取るのに本当に苦勞している。うまく企業と組む方法はいくらかでもあるので、是非外に出て色々な企業と会うといいのでは。(新)
- ⑥毎回管理職の教員の方としかお会いしておりませんが、企業で活躍しているメンバを非常勤として教員にしているのはどのくらい、どのようなケースがあるのでしょうか?(満岡)
- ⑦難しいことだが、高専OBなどの先生や民間企業や大学などにネットワークをはりめぐらして、質の高い先生の確保につとめて欲しい。(中台)
- ⑧IT業界の人材不足が叫ばれている中、IT系教員の確保はより難しくなっている。高齢者や女性の活用など引き続き確保に努力して欲しい。(木田)
- ⑨優秀な教員を集めるのは大変と思いますが、学校の評価や優秀な学生を育てるうえでは重要項目となると思います。(勝間田)
- ⑩教育機関の根幹である教育の質の担保あるいは向上には優秀な人材の確保が不可欠です。困難な時代ではあっても、教育機関の最も重要な部分の一つですね。(沼田)
- ⑪時代の変化にあわせた優秀な教員確保が一番のテーマなのだと思います。(小澤)
- ⑫最新技術のソフトを使うことができる非常勤の先生がいるのはとても良い事だと思います。(秋永)
- ⑬現場経験のある先生方が多いが、学校に長く勤めている人は今の状況が分からないので、積極的に人材確保していただきたい。(伊藤)

(4) 学修成果

4-28 就職率の向上が図られているか

評価結果	適切：32 100%	不適切：0
------	---------------	-------

委員コメント

- ①就職率 94.3%は立派な数字だと思います。今後、大学との競合がより激しくなっていくと思われます。より一層のきめ細かい指導を希望します。
(浅賀)
- ②「Jec Career Navi」の中をみてみないと 思いました。(井沢)
- ③社会人として求められる非認知能力についても指導。サポートをお願いします。
(内田)
- ④キャリアサポーター制度が上手く機能していると思われます。また様々な取り組みも評価される。結果高い就職率につながっていると考えられます。
(舟山)
- ⑤日々の努力の成果かと、個々にキャリアサポートが付くのは力強いですね。大変そうですが… (満岡)
- ⑥丁寧な就職指導体制とすることは高評価、ただ、今は企業からの求人も多いが、いまだからこそ不景気になった時の事を考えて、広く企業側への売り込み、求人開拓を行っていくべきだと思う。(中台)
- ⑦現在は企業の採用意欲が旺盛のため、就職率は高目に推移しているが、この状況がいつまでも続く訳ではないので、気を引き締めて、現在実施している良い施策を継続してもらいたい。(木田)
- ⑧学生にとって就職が最重要項目ですので、各部署で学生をサポートする必要があり。このシステムが機能した結果と思わせる。引き続き好成績が上げられるよう、各部署と協力しサポートして下さい。(勝間田)
- ⑨起業についてはサポートしていますか？就職率に入っていますか？(藤浪)
- ⑩すばらしい就職内定率を達成している。(松下)
- ⑪日本語学校の留学生にとって進学先が就職できる学校かどうかは重要です。期待しています。貴校の充実した就職指導をポイントに弊社での進学指導をしています。留学生に対する手厚い(少なくとも日本人学生と同等の)就職指導を期待しています。(沼田)
- ⑫学園全体で就職に力を入れているのが、よくわかります。(小澤)
- ⑬キャリアセンターの人が1クラスに1人いることで就職に対して身近で向き合いやすい環境であると感じています。就職サポートはとてもしっかりしていると思ひます。(三浦)
- ⑭キャリアサポートがしっかりされている。早い対応ができています。(伊藤)

4-30 退学率の低減が図られているか

評価結果	適切：32 100%	不適切：0
------	---------------	-------

委員コメント

- ①退学率7%強は少し高いのではないかと思います。より一層の対策をお願いしたいと思います。(浅賀)
- ②もう少しポイントの増加について厳しい自己判断されて良いのではと思います。今回ダメでも改善することが大切だと思います。(石本)
- ③ボトムアップが中心のようですが、上が更に上にいくことによる効果もあるかと思います。そのサポートについてもご一考いただけますと良いかもしれません。(井沢)
- ④地道な取組みには頭が下がります。(内田)
- ⑤その「手厚いサポート」が逆に重荷になる学生もいそうで、むずかしいですね……………(川崎)
- ⑥いくつかの対策が行われているが、退学率が増加しているので、対策自体の有効性の見直しを行ったほうがよいのでは。(井上)
- ⑦厳しい評価であるが、評価的には正しいと思われる。ただし、様々な手段を打っており、今後の低減は期待されると思う。(舟山)
- ⑧早期ケアが必要かと思います。入学する時から予兆のある方もいるような…(満岡)
- ⑨個々の学生が一人にならないように配慮されていると思います。通常の企業であっても、心の病になったりしないようにしているか、心の弱い人が増えているのも今の社会なので、この数字は良い数字だと思う。(中台)
- ⑩キャリアデザインを指向していく以上、ある程度、学習内容を理由とする退学者が出るのはある意味仕方ない。募集イベントでの情報提供、学習上のフォローアップ等の施策は妥当かと思われる。(木田)
- ⑪退学率が低くなるよう、さらに努力して下さい。(勝間田)
- ⑫退学率に対して、学校として登校率の向上をはかっているとのことですが、学習意欲の向上についてはどのような対応を考えていますか？(藤浪)
- ⑬退学率7.8%は他校よりかなり低いのでは？(松下)
- ⑭入学前に学科と自分の希望がマッチしているか確認するという部分については、何か変化があたのでしょうか。(沼田)
- ⑮退学率の低減を図るための対策がとられております。(小澤)
- ⑯入学前の情報提供に関してはとても重要だと思っています。正確に伝わっているのか、学科ごとに何らかの調査をしてみても良いかと思います。(アンケートなど)(三浦)
- ⑰Jec week は良い期間であった。高校で学習経験のある人は基礎から学ぶ授業に対して意欲をなくし、休みがちになる傾向があると思われる。(伊藤)

(7) 学生の募集と受入れ

7-46 学生募集活動は、適正に行われているか

評価結果	※未記入：1	適切：31 96.9%	不適切：1
------	--------	----------------	-------

委員コメント

- ① 大学との競争がより一層激しくなると思われま
す。専門職大学への移行も
控えていると思われま
すが、既存大学に負けないだけのレベルは本校は有
していると思
いますので、幅広い人財の確保をお願いしたいと思
います。
(浅賀)
- ② 国外の学生募集に
関しては、特に難しい点があると思
いますが、多々の工
夫が見受けられ、またコンプライアンスも
遵守されています。
(舟山)
- ③ 募集の活動に
対してどれくらい
の人数が参加して、どれだけ入学
している
かもわかるとも
っと良いと思
う。(新)
- ④ イベント集約化
はいいと思
います。(満岡)
- ⑤ 地方をブ
ロックにして、説明会
などをやってみては
どうか。たしかに東京
に出てきて見て
もらうことも大事
だが、多くの選
択支の中で選
んでもら
うのだからいろ
いろと試
してみるべき
だと思
う。日本語学校に、説明
しているのは
良い試
みだと思
う。学生が早い
段階で海外の
人間と交流する
機会の
提供にも
なるので。(中台)
- ⑥ 広範囲に行
われている事
が知れ
ました。企業
の社員
研修
などの
分野
の需
要
もあ
るかも
知れ
ませ
んので
リサ
ーチ
した
らど
うだ
らう。(勝間田)
- ⑦ きめ細
かく
学生
募集
が行
われ
てい
る
と思
いま
す。(小澤)
- ⑧ 遠方
の
人
も
入
り
や
す
い
学
校
に
な
っ
て
い
る。(伊藤)

(8) 財務

8-51 財務について会計監査が適正に行われているか

評価結果	※未記入：1	適切：31 96.9%	不適切：1
------	--------	----------------	-------

委員コメント

- ① 厳しい
自己
評価
だ
と思
いま
すが、
体制
整備
に
努
め
て
下
さ
い。(内田)
- ② 今後
の
事
を
考
え
て
の
厳
し
め
の
評
価
と
い
う
こ
と
が
分
か
り
ま
し
た。(舟山)
- ③ 公開
義務
で
開
示
し
に
く
い
学
校
も
あ
る
中、
優
秀
だ
と
感
じ
て
い
ま
す。(満岡)
- ④ 法的
に
適
正
で
あ
る
と
思
いま
す。(小澤)

(10) 社会貢献

10-58 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか

評価結果	適切：32 100%	不適切：0
------	---------------	-------

委員コメント

- ① ボランティアへの前向きな姿勢、伝わりました。(舟山)
- ② ボランティア参加者が大幅に増えているのは素晴らしい。(新)
- ③ コンテストのボランティアスタッフ等も協力して欲しい。子供向けコンテストに学生がスタッフ参加する事はモチベーションやテクニカルな点でもメリットがある。(渡辺)
- ④ 学生は自発的な行動を一種の「祭り」のようにしていく力があると思います。学校が介入すると責任が伴うので、程良い力の入れ方でよろしいのではないかと・・・(満岡)
- ⑤ 年末に新宿駅周辺のクリーン大作戦を行っているのです、こちらも案内していただき、存在感を示して欲しい。(中台)
- ⑥ 学生自らのアイデアでボランティア活動を企画、参画できるとなお良い。2020年のパラリンピックのボランティア活動等は良い機会かもしれない。(木田)
- ⑦ 良い事です。(勝間田)
- ⑧ ボランティア活動は本来自発的なものであるとはいえ、支援の体制があるかないかでは参加者の数も成果も全く違ったものになるでしょう。今後も奨励・支援を期待しています。(沼田)
- ⑨ 学生のボランティア活動者も大幅に増加し、学園で力を入れているのがよくわかる。(小澤)
- ⑩ 大幅な人数増加が伺える。(伊藤)

10-59 地域に関する公開講座・教育訓練（公共事業訓練を含む）の受託等を積極的に実施しているか

評価結果	適切：32 100%	不適切：0
------	---------------	-------

委員コメント

- ① 近隣への年賀状講座など地域の取組みは是非継続、ブラッシュアップをなさって頂けたらと思います。期待しております。(石本)
- ② 学生が地域の方にレクチャーする講座をすれば、学生への「あたり」がよくなるだろうし、学生ボランティアとして日本電子らしいのではないか。(川崎)
- ③ よく理解できました。(舟山)
- ④ 大人になっても学習したい人は多いので、是非続けて欲しい。(新)
- ⑤ 地域公開講座はとても良いことだと思う。学校の評価が学生の評価にもつながるのでは。(中台)

- ⑥近隣住民向けの講座開催は良いと思う。(木田)
- ⑦高校生対象の公開講座を他の専門学校で実施しているようです。(勝間田)
- ⑧小規模であっても地道に継続していくことが、定着につながるのだらうと思います。(沼田)
- ⑨地域に対する貢献大だと思います。(小澤)
- ⑩公開講座で可能であれば学生スタッフとして、ボランティアを探しても良いかもしれない。(秋永)

(11) 国際交流

11-62 留学生の学修・生活指導について学内における適切な体制が整備されているか

評価結果	適切：31 96.9%	不適切：0 (未記入：1)
------	----------------	------------------

委員コメント

- ①「日本留学 AWARDS」に5年連続で選ばれ、その結果「殿堂入り」となった点は大変な名誉だと思っています。来年から受賞できなくなることは残念ですが、今後も頑張って下さい。(舟山)
- ②アジアの企業が伸びている中で、このように日本の文化なども含め、学んでくれる人材が増えていることは日本のために良いと思います。(新)
- ③毎年、海外の方が多いのは驚かされます。彼らはその後(卒業後)どうなっているのでしょうか、気になります。(満岡)
- ④殿堂入りおめでとうございます。留学生の就職についても、日本人と同様に手をかけて下さい。(中台)
- ⑤殿堂入りは名誉なことだと思う。(木田)
- ⑥480名にも及ぶ留学生数はすばらしい。(松下)
- ⑦貴校の留学生に対する学修生活指導の手厚さについては十分に信頼しています。今後も留学生に勧めたい学校のトップであり続けていただきたく思います。(沼田)
- ⑧5年連続 AWARDS の実績が認められ、殿堂入りは大変名誉で素晴らしいです。(小澤)
- ⑨留学生への手厚いサポートが伺える。(伊藤)

総合評価 【学校の改善に資するご意見】

- ① より一層の、また、不断の改革をお願いする次第です。新興大学よりもレベルは高いと思います。総合評価“4”（浅賀）
- ② 回を重ね、より洗練されている印象がある一方、多種多様な分野を統括しつつ評価することの難しさを感じます。
マクロ的な判断でよいものと、ミクロ的な判断が要求されるものの振り分けを一度しっかり行われることを希望いたします。（石本）
- ③ 全体通して素晴らしい取組だと思えます。自己評価についてもどちらかというと厳しくされていて、今後のさらなる改善が期待できます。
必然な面もありますが、全体を通してボトムアップが中心になっていると思います。上を更に上へと引き上げることで、モチベーションアップからのボトムアップもねらってみてもよいのでは、と思えました。（井沢）
- ④ キメの細かい学校運営、学生サポートには頭が下がる思いです。NEXT10の成功・着実に飛躍されることを願っております。（内田）
- ⑤ 「現状に満足しない」という姿勢が良く分かりました。そのため、私達から見るとかなり厳しい自己評価になっていると思います。毎回確実に課題をクリアしてきている点は素晴らしいと思います。これからもよろしくお願いいたします。（舟山）
- ⑥ 全体的に数値をきちんと取っているものと、取っていないものがあるので、可能なものはどんどん数値を取ってほしい。それを毎回比較することで色んな改善が進むと思います。後は日本電子さんはまじめで、きちんとしているイメージがあるので、そのブランディングも是非進めていただければ。（新）
- ⑦ ビルの見た目などにも注意して欲しい、となり？のビルの1Fにあるガラスの部屋には、外から見てダンボールが積み上がっていたり、イメージが悪い。（渡辺）
- ⑧ 建学の精神にある「世界貢献」はどのように計るのか？数なのか質なのか？難しいことではありますが、社会に出て「楽しい生活（働き方）」をしていない方が多い中、実は「生きがい」「楽しさ」を感じている、感じる事が出来る能力が一番大切なのではないかと思っています。世界 = World Madeなのであれば、英語が足りないかと、世界 = 個人的生活なのであれば、卒業後数年経ってからアンケート、イベントでその数値を学校の特色としてもいいかもしれません。（満岡）
- ⑨ 電子技術のスピードが早く、賞味期限が短くなってきている。時流を追いつくのでは、世の中に一步遅れてしまう気がする。新しい技術分野を学生に教えるには大事だと思います。しかし努力なくして技能や技術は修得できず、学生の落ちこぼれがないように職員みなさんに頑張ってください。（中台）
- ⑩ 今年度も非常に多くの改善項目を実現し、素晴らしいと思う。（木田）
- ⑪ 自己評価は適切に行われていると判断します。様々な角度から、細かく分

析されていて、深く聞いてみたい項目も多くありました。今後も教育の質の向上を図るPDCAサイクルの実践を通して学園全体が発展することを期待します。(米井)

- ⑫ 多方面に渡り、学校として努力していると思われます。このような事を毎回行い、状況を確認したり見直ししたりする事が学校の発展や持続する事へとつながると思ひます。(勝間田)
- ⑬ 学校内で起業する等の取り組みも出来ると思ひます。様々な視点で生徒の思ひを実現できるようになつて思ひます。私達の生徒も良い学習ができて思ひます。ありがとうございます。(藤浪)
- ⑭ 各部門で高い目標を設定されている。自己評価は厳しいと思われ所もあるが適切である。新規事業も社会の動向を視野に入れて設定されている。AIのプログラム用途は今後、急速に伸びると考えられる。(松下)
- ⑮ 専門学校として常に最先端の教育を目指して日々頑張つてこられて思ひます。とてもすばらしいと思ひます。ただ1点、娘の話によると授業開始のチャイムが鳴つてから教室(実習室)の扉が開けられることもあるようなので、せめて10分前には教室に入れさせて下さい。今後もどうぞ宜しくお願ひ致します。(高橋)
- ⑯ 全ての項目において目標に向け、計画・実行されていると感じました。これからもさらなる改善に向け、さまざまな挑戦をしていってもらいたいと感じました。(藤本)
- ⑰ 関連分野の最先端である企業の方々からの知識・技能をもつと修得できればと思ひます。(植村)
- ⑱ 担当教員により授業の進行が早い時があるので、作業の遅い生徒への気配り等も改善して頂けたらと思ひますので、宜しくお願ひします。(清水)
- ⑲ おおむね自己評価は適切ではないかと思ひました。改善すべきと思うところがあるようであればそれに向けて行動して行ってほしいと思ひます。日々ご苦勞様でございます。ありがとうございます。(日比野)
- ⑳ 新設科開発フレームを利用して「AIシステム科」をさっそく創つたことはビックリです。すばらしい実現力だと思ひました。日々向上していると感じました。(谷)
- ㉑ 全体としては良く努力していると思ひます。自己評価の中で改善課題として挙げられている各課題の早期達成を期待する。(中山)
- ㉒ 学園のスタッフが全員で同じ方向に向かつて努力している姿がみえます。今後とも全力を尽くして、学園の発展に貢献していただきたいと思ひます。人間力をもつた技術者の育成はとっても大切なことです。(小澤)
- ㉓ 全体的に良くなつて思ひました。毎年言つてるかもしれませんが、資格取得の件は難しい課題だと思ひますが、頑張つて欲しいです。(秋永)
- ㉔ 専門学校の強みである就職に結びつけるための対制がとてもしっかりしていると感じるので、全学科の資格取得率が目標達成できるようなサポート

を強化していくべきだと思います。(三浦)

- ②⑤ 評価を下げた理由についても細かくお話して頂き、理解する事ができました。今後の改善方法も明確でしたので、より良い学校を目指して頂きたいです。また新しい学科の新設、NEXT10等、新しい取り組みが見え、日本電子専門学校の更なる発展に期待したいと思います。(伊藤)
- ②⑥ 学習理由による退学者の増加が著しいという面において、少し長めの変更期間をとってもいいのではと思いました。(戸嶋)
- ②⑦ これからの指針として、この評価冊子に忠実に行えば確実に学校運営は改善・達成されるであろうと思う程、自己評価が出来ていたと思いました。ただ、在校生の立場から申し上げると、生徒に見える部分というのは担任と教科の担任の先生方だけである訳なので、大きな部分ではなく、授業の質の向上という点をオリジナル教材以外の面から考えて頂ければと思いました。(假野)

IV 平成 29 年度第一回学校関係者評価委員会議事録

日 時：平成 29 年 7 月 3 日 13:30～17:00

場 所：日本電子専門学校 9 号館 ミニホール

学校関係者評価委員：

名 前	所 属 (役 職)	区分	グループ
浅賀 央起	株式会社ぴえろ (執行役員)	企 業	A
石本 則子	株式会社スタジオフェイク (代表取締役)		A
井沢 祐	株式会社スタジオフェイク (ディレクター)		A
内田 昌宏	株式会社ラック (常務理事)		A
川崎 紀弘	株式会社コンセント		A
井上 貴弘	株式会社ナレッジコンスタント (システム開発部部長)		A
舟山 大器	株式会社横浜環境デザイン (営業戦略室室長)		A
新 和也	オートデスク株式会社 (メディア&エンターテインメント セールスマネージャー)		A
渡辺 登	合同会社ワタナベ技研 (代表社員)		A
宮井 あゆみ	CG-ARTS 協会 (事務局長)		職 能 団 体
満岡 秀一	一般社団法人 Open Embedded Software Foundation (理事)	A	
中台 浩正	東京商工会議所 新宿支部 (事務局長)	B	
木田 徳彦	一般社団法人コンピュータソフトウェア協会 (理事)	A	
米井 翔	一般社団法人組込みシステム技術協会 (研修委員会 委員)	A	
勝間田 清一	日本大学 生物資源科学部 講師	教 育 関 連	B
藤浪 優	株式会社ウィザス (第二教育本部・教育運営部 ICT 推進室 主任)		B
松下 秀房	目白研心中学校・高等学校 (理事・校長)		B
沼田 宏	株式会社インターカルト日本語学校 (教務部長)		B
二俣 久美		保 護 者	B
高橋 智子			B
藤本 香織			B
植村 美智子			B
清水 啓子			B
日比野 晴美			B

谷 伸城	株式会社アプリケーションプロダクト (ソリューション統括本部 プロジェクトリーダー)	卒業生	B
中山 秀昭	日本電子専門学校同窓会 (副会長)		B
小澤 博太郎	百人町西町会 (会長)	地域	B
秋永 美穂	高度コンピュータグラフィックス科 (4年)	在学生	B
三浦 稚子	Web デザイン科 (1年)		B
伊藤 史華	アニメーション科 (1年)		B
戸嶋 瑠奈	ネットワークセキュリティ科 (1年)		B
假野 紗希子	コンピュータグラフィックス科 (1年)		B

日本電子専門学校参加者：

名 前	役 職
古賀 稔邦	校長
船山 世界	副校長
杉浦 敦司	教育部長
佐々木 卓美	教務部長
小暮 幸雄	広報部長
白石 修一	財務経理部長
丸山 治	人事部長
内田 満	総務部長

進行：

- | | | |
|-------|-------------------------|----------|
| 13:30 | 1. 開会（挨拶、配布資料確認） | 内田 |
| | 2. 校長挨拶、学校関係者評価全体説明 | 古賀 |
| | 3. 学校側参加者紹介、学校関係者評価委員紹介 | 内田 |
| | 4. 学校関係者評価の進め方説明 | 内田 |
| 13:45 | 5. 議長選出、委員会開始、議事進行 | 議長（舟山委員） |
| | 6. 自己評価結果の解説とその評価の報告 | |
| | 教育重点項目（1～3） | 古賀 |
| | （1）教育理念・目的・育成人材像 | 古賀 |
| | （2）学校運営 | 内田 |
| | （3）教育活動 | 杉浦 |
| | ・・・評価結果の判定（評価）・・・ | |
| | （4）学修成果 | 船山 |
| | （7）学生の募集と受入れ | 小暮 |
| | （8）財務 | 白石 |
| | （10）社会貢献 | 内田 |
| | ・・・評価結果の判定（評価）・・・ | |
| 15:25 | 7. 意見交換 | |
| 15:40 | 8. 全体会終了 | |
| 15:40 | 9. 分野別分科会（Aグループ委員） | |
| | 校内見学（Bグループ委員中希望者のみ） | |

<分野別分科会/校内見学>

A グループ		B グループ
15:40	分野別分科会	15:40 校内見学
	①IT・Web 782 教室	7号館、本館
	②セキュリティ 172 教室	(校内見学希望者のみ)
	③ビジネス 181 教室	
	④電気 1022 教室	
	⑤電子 791 教室	
	⑥ゲーム 441 教室	
	⑦アニメ 752 教室	
	⑧デザイン 772 教室	
	⑨CG 431 教室	
17:00	終了	16:00 終了

1. 全体自由意見

自由意見：

自己点検評価の評価（適正・不適正）終了後、学校関係者評価委員より自由に意見を頂戴する時間を設けた。次年度の学校運営や教育活動に直接的、間接的に反映できる意見も多々あり、以下にその記録を報告する。

<新委員>

私は、今回初めての参加ですが、3D製品の開発、販売の会社で営業を担当しています。日本電子専門学校とは、15～16年前（前の会社）からの付き合いなので、今日参加させていただき光栄です。今日、改めて御校の自己点検評価報告をお聞きし、学校側がこれだけ数値を取って比較して改善していることは、我々企業の人間にとっても驚きでした。と同時に取れていない数字も非常にあったので、その点を改善すれば、おそらく年を重ねるごとに更に良くなっていくのではないかと思います。

<宮井委員>

毎年参加させていただいていますが、専門学校としては、かなりしっかりした計画と実行する体制を整えられていて毎年改善をされているということが大変良く分かりました。まだこれからも大学のことなどいろいろ将来に向けてさらに飛躍されるという期待も、ここに参加しながら感じました。

<沼田委員>

いつも参加させていただいて、教育機関としては、私共日本語学校の目標となるようなすばらしい学校だと感じながら話を聞かせていただきました。日本語学校からは、留学生の進学先として日本電子専門学校があるので、進学先としては、私共は良い学校でしっかりした教育を受けてきちんと就職するというのを望んでいる訳です。良い学校としっかりした教育というのは同じかもしれませんが、教育だけでなくボランティア活動であるとか社会的な活動であるとか、そういう面でも他の専門学校とは違うしっかりした学校であるので、我々も安心して生徒を預けられる学校であると思っています。今後も信頼できる学校であって欲しいと願っています。

<小澤委員>

学園の皆様には町会の行事に参加していただいたり、また、先程のご説明にもありましたが、（近隣住民対象パソコン講習会）「かんたん年賀状作成講座」において、コンピュータでの年賀状の作り方を講義していただきました。私も参加いたしましたが、何しろ年寄りなものですから、“かんたん”と銘打っても簡単じゃないんですよね！ですから、ある程度、継続的に何度か開催していただければ、いろいろな知識が身に付くのではないかと思います。そういった意味で大変感謝しております。また、本日の感想としては、何といても、人間的な魅力を持った技術者を育成するのは、大変大切なことです。今日お話を伺っていて学園のスタッフの皆さんが一

つの目標、一つのターゲットに向かって一致団結して歩んでいく姿が手に取るようによく見えて、私にとっても貴重な体験になったと思っています。ぜひこれからも頑張ってください。

<高橋委員>

先日、娘に、こういう委員会があるので、学校に対して何か気付いたことはないか？と聞いたところ、学習内容も先生方もすばらしいし内容もおもしろいので満足しているとのことでしたが、それでも何かないかと聞いたところ、「授業の開始の時に教室に鍵がかかっていて入れない時がある」ということを聞きました。10分前に開いてないこともあり、さらにチャイムが鳴ってから鍵が開くということもあったとのことでした。

私は、それはちょっとおかしいんだよという話を娘にしました。私も仕事を持っていますが、契約が10時なのに10時に鍵を開けたらお客様に対して失礼になりますよね。ですので、私たち（娘）はお金を払って習いにきている訳なので、せめて授業開始の5分前までには、教室の鍵を開けて、授業を受けさせてあげたいと思います。特に実習の部屋だそうですが、何回かあるらしいので、他の学科でもそれがあるのかどうか私には分かりませんが、基本的で大事なことでもあるので、ぜひそこはよろしく願いいたします。

<假野委員>

私もこの間新入生のアンケートを受けましたが、こういう風に結果がたくさんの方に見ていただけると思ったら回答のし甲斐もあったなと思うので少し安心しました。また、この学校に入ってから、キャリアセンターの方が1クラスに1人居てくださるといのが、すごく安心ができて、今日話を聞いていたら、そういった制度がすごくしっかりしていると思いました。（アンケートには）担任の先生の満足度をチェックするところがあるのですが、そこで（評価を）ちょっと低くしてしまってもキャリアセンターの方に相談できるので、（1クラスに担当が）2人いるという点でも安心できるので、全体的に勉強に取り組む環境がとてもよくできていると思います。あとは（自分自身が）頑張るだけだと思っているので、これから頑張ります。

<舟山委員長>

企業ではよく数字、数字と言われます。学校で言えば、入学者の数や就職者数・就職率などが一番目につくところではありますが、それももちろん大切なことですが、そこに一喜一憂するのではなく、一番大事なものは、プロセスのマネジメントだと思います。（数字が）ちょっと下がったり上がったりということで一喜一憂するのではなく、やはり、プロセス側の充実というものを図っていただければ自ずと良い結果が出てくるのではないかと、私個人的にはそう思っております。ぜひ今後共プロセスを大事にして良い結果につなげていただくことを期待しています。

2. 分野別分科会

分野別分科会は、以下の次第に従い、各学科の教育内容について、企業や業界団体の委員より評価を受けることを目的として行っている。同時に、業界の動向や最新事情などの収集や人材育成に関する意見交換などを積極的に行っている。

【次第】

1. 分野別分科会の目的と議事進行について
2. 実習環境の見学と説明
3. 意見交換
4. その他

【分野】

- ① IT・Web 分野分科会
- ② セキュリティ分野分科会
- ③ ビジネス分野分科会
- ④ 電気分野分科会
- ⑤ 電子分野分科会
- ⑥ ゲーム分野分科会
- ⑦ アニメーション分野分科会
- ⑧ デザイン分野分科会
- ⑨ CG 分野分科会

第 1 回学校関係者評価委員会 分野別分科会 議事録

開催日時： 平成 29 年 7 月 3 日（月） 15：40～17：00

場 所： 781 教室

分 野： IT・Web 分野

学 科： 情報処理科

出席者： ①学校関係者評価委員

（団体）満岡 秀一 一般社団法人 Open Embedded Software Foundation
理事

（企業）井上 貴弘 株式会社ナレッジコンスタント
システム開発部 部長

渡辺 登 合同会社ワタナベ技研
代表社員

（合計 3 名）

②日本電子専門学校

出崎 誠司 情報処理科 学科長

（合計 1 名）

- 次 第： 1. 分野別分科会の目的と議事進行について
2. 昨年度の教育活動実績報告（資格取得、オリジナル教材、ドロップアウト、就職の状況）
3. 意見交換
4. その他

議 事： 議題 1 昨年度の教育活動実績報告に関わる意見

<内容>

・就職活動に関する内容として

学科として年々、留学生の入学者数も増加しているが、受け入れてもらえる企業がなかなか見つからないのが現状で、良い方法などがあれば意見をいただきたい。

<意見>

IT 業界は請負業務が多いこともあり、客先での契約上、なかなか採用には至らないこと現状である。可能であれば、学校求人以外にもネットを利用して学生個人で情報発信し、自分のアピールポイントなど売り込むことも必要ではないか？

議題 2 情報処理科のカリキュラム改善に伴う卒業生調査について

<内容>

現在、教育課程編成委員会が出された意見の取り組みとして、カリキュラム改善に伴う卒業生調査を今年度に行う予定であり、卒業後、何年目を対象に調査を行った方が良いか意見をいただきたい。

<意見・案>

可能であれば、3・5・10年目を対象に行ってはどうか？

理由として、3・5年目ぐらいが学校で学習した内容がどこまで通用しているかわかりやすいと思う。また、10年目にいたっては管理職になっていることも予測できるので、また違った視点からの結果がわかると思う。

その他

なし

ま と め： 今回、学科において教育活動実績報告ならびに取り組みについての報告が中心であったが、その中で学科でも課題としている留学生の就職活動について意見をいただいた。また、学科の

カリキュラム改善に伴う卒業生へ調査対象について提案をいただき、再度、学科内部でも検討したいと思う。

以上

第 1 回学校関係者評価委員会 分野別分科会 議事録

開催日時： 平成 29 年 7 月 3 日（月） 15：40～17：00

場 所： 781 教室

分 野： IT・Web 分野

学 科： 情報システム開発科

出席者： ①学校関係者評価委員

（団体）満岡 秀一 一般社団法人 Open Embedded Software Foundation
理事

（企業）井上 貴弘 株式会社ナレッジコンスタント
システム開発部 部長

渡辺 登 合同会社ワタナベ技研
代表社員

（合計 3 名）

②日本電子専門学校

大川 晃一 情報システム開発科 学科長

（合計 1 名）

- 次 第： 1. 分野別分科会の目的と議事進行について
2. 昨年度の教育活動実績報告（資格取得、オリジナル教材、ドロップアウト、就職の状況）
3. 意見交換
4. その他

議 事： 議題 1 昨年度の教育活動実績報告に関わる意見
<意見>

学生の自発的な学習を促進するために、金沢工業大学の夢考房のマイスター制度など参考にしてみたらどうだろうか。ここは学生が自由にものづくり活動に取り組めるスペースで、学生たちが自由に議論・失敗・試行錯誤をしている。マイスターと呼ばれる学生が技術的なフォローをする等、課外活動の活性化につながる取り組みである。教員がすべてのレベルの学生に対応するのは難しいため、技術や知識のレベルが高い学生が他の学生を教えるようにしても良いのではないかな。

プログラミングの初動教育として Google Blockly といった開発環境を導入するのはどうだろうか。ただし、マウスでドラッグするのがプログラミングだと誤解されては困るが。入学初期のドロップアウトの対策の一助にもなり得るのでは。

資格取得率を上げるために、はじめから資格対策や基礎的な内容の詰め込み学習で興味を失わせるよりも、最初にもものづくりとして形になる取り組みをさせ、興味を持ってから、より体系的な学習をするといった流れのほうが良いのではないかな。実践的な取り組みの中で問題を抱えたり、試行錯誤した経験に基づいたうえで学習したほうが身に付くと思われる。

ま と め： 学科の教育活動実績報告と取り組みについての報告の中で、実践的な教育や資格取得に向けた効果的な取り組みについての意見を頂いた。「資格をとるため」という目的から、「ものづくりをするため」という目的に、少しだけでも意識をシフトさせたほうが、教育効果が高いのではないかなという話であった。本質を見失わない教育内容が必要であると感じたため、オリジナル教材も含め、少しずつでもその要素を追加していこうと思う。

以上

第 1 回学校関係者評価委員会 分野別分科会 議事録

開催日時： 平成 29 年 7 月 3 日（月） 15：40～17：00

場 所： 781 教室

分 野： IT・Web 分野

学 科： 高度情報処理科

出席者： ①学校関係者評価委員

(団体) 満岡 秀一 一般社団法人 Open Embedded Software Foundation
理事

(企業) 井上 貴弘 株式会社ナレッジコンスタント
システム開発部 部長

渡辺 登 合同会社ワタナベ技研
代表社員

(合計 3 名)

②日本電子専門学校

糠盛創 高度情報処理科 学科長

(合計 1 名)

- 次 第：
1. 分野別分科会の目的と議事進行について
 2. 昨年度の教育活動実績報告（資格取得、オリジナル教材、ドロップアウト、就職の状況）
 3. 意見交換
 4. その他

議 事： 議題 1 昨年度の教育活動実績報告に関わる意見

<意見>

- Oracle Master Gold までカリキュラムに入っているのは良いが、もし単なる資格対策のみとなっているのであるのであればもったいない。
- 実践的な取り組みの中で問題を抱えたり、試行錯誤した経験に基づいたうえで学習したほうが身に付くのではないか。
- 実践的な試行錯誤を経験していれば、その後の資格取得も比較的容易なのではないか。
- 最初から資格や基礎的な学習で興味を失わせるよりも、ものづくりとして形になる取り組みを最初にさせて興味を持ってから、より体系的な学習をしたほうが良いのではないか。
- 金沢工業大学の夢工房のような実践的な環境が参考になるのではないか。
- Google Blockly のような開発環境でも良いが、マウスでドラッグするのがプログラミングだと誤解されても困る。むしろ、子供だましのような環境では満足できない学生に来てほしい。
- 教員がすべてのレベルの学生に対応するだけでなく、技術や知識のレベルが高い学生が他の学生を教えるようにしても良いのではないか。
- 他の学生を教えた際に、学内ポイント等を与えて小遣い稼ぎのようなことができても良い。
- 丁寧なステップを順に追う教材よりも、インターネット上の参照先等を充実させて自分で調べたり、考えたりしてできる教材のほうが教育効果が高いのではないか。
- ページ数の多い教材よりも、シンプルな教材のほうが学生が考える機会を与えられるのではないか。
- ライブコーディングのような授業のほうが、教員の試行錯誤も学生に伝わって考え方や調べ方が身につくのではないか。

ま と め： より実践的な授業や、学生の興味・関心を喚起するための授業についての意見を主にいただいた。確かに現状は、とくに 1 年次の科目に資格対策や基礎的なコンソールプログラムが多く、ものづくりの楽しさを感じづらいカリキュラムである。制度上すぐに対応できることは限られるが、今

後、よりものづくりの関心を持てるようなカリキュラムを盛り込めるよう少しずつでも検討していきたい。

以上

第 1 回学校関係者評価委員会 分野別分科会 議事録

開催日時： 平成 29 年 7 月 3 日（月） 15：40～17：00

場 所： 781 教室

分 野： IT・Web 分野

学 科： ケータイ・アプリケーション科

出席者： ①学校関係者評価委員

（団体）満岡 秀一 一般社団法人 Open Embedded Software Foundation
理事

（企業）井上 貴弘 株式会社ナレッジコンスタント
システム開発部 部長

渡辺 登 合同会社ワタナベ技研
代表社員

（合計 3 名）

②日本電子専門学校

大川 晃一 ケータイ・アプリケーション科 学科長

（合計 1 名）

- 次 第： 1. 分野別分科会の目的と議事進行について
2. 昨年度の教育活動実績報告（資格取得、オリジナル教材、ドロップアウト、就職の状況）
3. 意見交換
4. その他

議 事： 議題 1 昨年度の教育活動実績報告に関わる意見
<意見>

・学生の自発的な学習を促進するために、金沢工業大学の夢考房のマイスター制度など参考にしてみたらどうだろうか。

ここは学生が自由にものづくり活動に取り組みめるスペースで、学生たちが自由に議論・失敗・試行錯誤をしている。マイスターと呼ばれる学生が技術的なフォローをする等、課外活動の活性化につながる取り組みである。教員がすべてのレベルの学生に対応するのは難しいため、技術や知識のレベルが高い学生が他の学生を教えるようにしても良いのではないかと。

オリジナル教材を充実させるのも大切だが、内容にも注意したい。丁寧なステップを順に追う教材よりも、インターネット上の参照先等を充実させて自分で調べたり、考えたりできる教材の方が、教育効果が高いのではないかと。また、ページ数の多い教材よりも、シンプルな教材の方が、学生が自分で考える機会を与えられるのではないかと。

プログラムの授業は教科書や問題集を一方向的にやらせるよりも、例えば課題に対する教員のライブコーディングを見せながら、同じ課題を学生にもやらせるといった手法のほうが、教員の試行錯誤も学生に伝わって考え方や調べ方が身につくのではないかと。

ま と め： 学科の教育活動実績報告と取り組みについての報告の中で、実践的な教育や資格取得に向けた効果的な取り組みについての意見を頂いた。学科で利用しているオリジナル教材を見せた際には、とても完成度の高い教材であるという一定の評価をいただいた。今回の話にあったヒントを教材に反映させて、よりよい教材に昇華させていけるようにしたい。

以上

第 1 回学校関係者評価委員会 分野別分科会 議事録

開催日時： 平成 29 年 7 月 3 日（月） 15：40～17：00

場 所： 152 教室

分 野： ネットワーク・セキュリティ分野

学 科： ネットワークセキュリティ科

出席者： ①学校関係者評価委員

（企業）内田 昌宏 株式会社ラック
常務理事
事業企画部 シニアコンサルタント
営業本部 シニアコンサルタント

（合計 1 名）

②日本電子専門学校

園田 昌平 ネットワークセキュリティ科 学科長

（合計 1 名）

- 次 第：
1. 分野別分科会の目的と議事進行について
 2. 昨年度の教育活動実績報告（資格取得、オリジナル教材、就職、ドロップアウトの状況）
 3. 意見交換
 4. その他

議 事： 議題 1 目標資格について

<意見>

- ・全体での報告にある目標資格の取得率について、バラツキが見られるのはどうしてかとの指摘を受け、本学科の目標資格である「CCENT」「CCNA」「LPIC」「CompTIA」の学生受験状況を報告した。
- ・特にベンダー系の資格の受験料が高く、学生として受験するにはハードルが高い。よって受験準備が完璧な状態の学生しか受験及び合格には結びつかない状況である（学生個々に温度差がある）ことで異論はない。
- ・企業側からは、就職に関係する資格取得が望ましいが、必ずしも資格を取得していなければならないことではない（業界で知名度のある資格が望ましい）。
- ・資格取得は、そのための努力と実績（継続力、忍耐力、想像力など）が就職活動にプラスになるとしてみている。

議題 2 オリジナル教材について

<意見>

- ・オリジナル教材の充実度は満足するものとして異論はない。
- ・引き続き内容を検討し、最新技術を取り入れたものに更新していく必要がある。キーワードとして「Cloud」「サーバ仮想化」「ネットワーク設計」などがあげられる。

議題 3 ドロップアウト状況、就職状況について

<意見>

- ・就職率 3 年連続で 100%は、大いに満足するものである。今後も引き続き 100%を目指してほしい。
- ・現在約 50%前後の内定率であり、例年より留学生がよくない状況を報告した。
- ・ドロップアウト状況は、入学検討時でのイベント参加や学科学習内容を理解している学生は特に問題はない。しかし、入学後にモチベーションの低い学生がドロップアウト対象者となっている。
- ・ドロップアウトしたあと、一部は休学後復学（転科も含む）の手続きをしている。

ま と め:

資格取得率は、状況を説明後納得していただけた。どれでも良いということではないが、できれば関連する資格取得が望ましい。また、オリジナル教材の充実度は十分であるが、技術進歩が激しい業界であるので、最新技術に近い内容を網羅できるよう更新していく必要がある。そのためのアプライアンスや実習環境の整備も必要であることも了承された。

以上

第 1 回学校関係者評価委員会 分野別分科会 議事録

- 開催日時： 平成 29 年 7 月 3 日（月） 15：40～17：00
場 所： 411 教室
分 野： ビジネス分野
学 科： 情報ビジネスライセンス科
出席者： ①学校関係者評価委員
(職能団体) 木田 徳彦 一般社団法人コンピュータソフトウェア協会
理事 人材委員会副委員長
(合計 1 名)
②日本電子専門学校
谷口 英司 情報ビジネスライセンス科 学科長
(合計 1 名)

- 次 第： 1. 分野別分科会の目的と議事進行について
2. 昨年度の教育活動実績報告（資格取得、オリジナル教材、就職、ドロップアウトの状況）
3. 意見交換
4. その他

- 議 事： 議題 1 昨年度の教育活動実績について

(1) 資格取得状況の詳細について、別紙資料をもとに報告した。

<意見>

- ・ MOS (PowerPoint) を取得している学生がいるが、企業側からすると PowerPoint を使う機会が多いので、PowerPoint も入れていくのもありかもしれない。実務で使えていれば良いという面やバージョンの問題、時間数や難易度の絡みもあるから、悩ましいとは思いますが。

(2) オリジナル教材の現状について、別紙資料をもとに報告した。

<意見>

- ・ オリジナル教材を増やせばいいのか、という面もあり、悩ましい問題である。市販本の補足資料を配布するなどでも良いのではないか。
- ・ 標準テキスト（市販本）と学生に合わせて補足プリントを配るのが良い。
- ・ 「標準語」（標準的な教材＝市販本）で学び、理解しづらければ「方言」（補足プリントなど）で学ぶというのが良いと思う。

(3) ドロップアウトの状況について、別紙資料をもとに報告した。

<意見>

- ・ 全体会でもあったが、「健康」「経済」は仕方ない。学習面のフォローが問題となるであろうが、キャリアデザインに力を入れている学科なので、ある程度厳しくならざるを得ない。そこまでの心構えがない学生は仕方ない。経営的にはドロップアウトは少ないほうが良いのだろうが、ある程度は仕方ないと考えておかないと、緩くなってしまう。
- ・ 新入生アンケートの分析は凄いと聞いていた。クラスに馴染めずにドロップアウトと言う人が少ないのは、予想外だった。意識が高い入学者が多い。

<質問>

- ・ 新入生アンケートの結果について、他学科との違いはあるか。
大きな違いはないと思われる。他学科と比べ、就職しなければ、という意識は強いが、職種が決まっていない傾向が強い。

- ・ やめる人はいつの時期にやめるか。
14JLの1名は2月、昨年の4名は、5月、9月、3月である。

(4) 就職状況の状況について、別紙資料をもとに報告した。

<意見>

- ・ 自分の会社でも研修事業を行っているが、IT・プログラマは人材不足なので、学習未経験者の採用意欲が高いと感じている。

<質問>

- ・ 就職先は様々なのか。
販売、サービス（携帯ショップが多い）、飲食、IT、プログラマ、営業などである。
- ・ 入学後の進路変更などの場合、転籍（転科）は出来るのか。
入学した4月までしか出来ない。あとは、次の年度以降に1年次からやり直すしかない。

意見交換・その他

- ・ 就職に関して、若者が不足しているのは確かである。現在は仕事もある。IT業界も、家庭の主婦、高齢者、留学生を活用して行こうという傾向である。日本人の若者は有利だが、その辺りの人材と比較された時、有利であるとは言えない。油断していると、足元を掬われる。
- ・ 日本人の若者に、キャリアデザイン、どうやって生きていくか、将来を考えさせることは大事である。
- ・ 若者に不足していること（学力、知識、社会の動きなど）が多く、壁は厚い。
- ・ 中高生男子が将来なりたい職業の第1位がIT技術者という調査結果がある。業界としては、期待と戸惑いがある。IOTやAIなど、自分で創り出すというイメージが先行しているのではないと思うが、そういう仕事をしているのは一握りであり、実際の仕事とのギャップがある。若者には、企業に入るというより、アイデアと技術で自分のシステムを作り、ビジネスモデルを考えていくような「起業家」になってほしい。
- ・ IT業界の人材育成、高齢化対策も重要。発想が豊かな若者が出て来ると良いのだが。
- ・ アイデアを出すためには、経験・知識が必要。ある程度、長くやる必要があるのではないか。また、新しいアイデアを生み出すのは難しいので、考える癖を付けるだけでも良いのではないか。
- ・ 知識不足は、先生が発信していくしかない。社会人になるのだから、先生に近づかせるようにしないとイケない。
- ・ 若者を理解し、こちらの考えを理解させるためには、コミュニケーションが重要。理解してもらうまで会話を続けるしかないのかもしれない。
- ・ 募集定員くらいは集めないといけないのはあるのだろうが、どうすればというのが難しい問題である。
- ・ 資格取得に特化していないので、学科名称から「ライセンス」を外しても良いのかもしれない。
- ・ 「営業」の人材を育てる学校はあまりないので、「セールスビジネス科」のような名称はどうか。
- ・ 不登校の学生などを対象にした「しつけ」を行う学校というのもニーズがあると思う。

まとめ： 昨年度の教育活動実績についての説明を行い、率直に意見を伺った。また、その他として、キャリアデザインやIT業界の現状と若者の教育などについても意見交換した。

伺った意見は、今後の学科運営にとって大いに参考になるものであったので、今後の検討課題とし、反映を目指していく。また必要に応じて、教育課程編成委員会での検討事項としても取り上げる予定である。

以上

1. 目標資格の取得状況（2016年度）

1JL1(16JL)

目標資格	在籍者	受験者	合格者	合格率（在籍者）	合格率（受験者）	備考
MOS（Word 2013）	9	8	8	88.89%	100.00%	
MOS（Excel 2013）	9	8	8	88.89%	100.00%	
CompTIA IT Fundamentals	9	9	9	100.00%	100.00%	
サービス接遇実務検定2級	9	8	6	66.67%	75.00%	
日本語ワープロ検定	9	9	8	88.89%	88.89%	
準1級		2	1		50.00%	
2級		3	3		100.00%	
準2級		3	3		100.00%	
3級		1	1		100.00%	
情報処理検定 表計算	9	9	9	100.00%	100.00%	
2級		8	8		100.00%	
4級		1	1		100.00%	

2JL1(15JL)

目標資格	在籍者	受験者	合格者	合格率（在籍者）	合格率（受験者）	備考
MOS（Word 2013）	10	8	8	80.00%	100.00%	
MOS（Excel 2013）	10	8	8	80.00%	100.00%	
MOS（PowerPoint 2013）	10	1	1	10.00%	100.00%	
CompTIA IT Fundamentals	10	9	9	90.00%	100.00%	
ITパスポート	10	0	0	—	—	
サービス接遇実務検定2級	10	4	4	40.00%	100.00%	
簿記検定3級（日本商工会議所認定）	10	4	2	20.00%	50.00%	
秘書技能検定	10	0	0	—	—	
日本語ワープロ検定	10	8	7	70.00%	87.50%	複数回受験あり
初段		1	0		0.00%	
1級		1	1		100.00%	
準1級		2	0		0.00%	
2級		1	1		100.00%	
準2級		5	4		80.00%	
3級		1	1		100.00%	
情報処理検定 表計算	10	7	5	50.00%	71.43%	
初段		1	0		0.00%	
1級		1	0		0.00%	
2級		5	5		100.00%	

2. オリジナル教材の充実度

学科	2016	2017	目標
情報ビジネスライセンス科	6%	6%	38%

3. ドロップアウト状況（第1期生～）

クラス	入学者	卒業者	退学者	ドロップアウト率	
13JL	20	20	0	0.00%	
14JL	12	11	1	8.33%	
15JL	10	10	0	0.00%	
16JL	13	-	4	30.77%	2017年6月末現在
17JL	17	-	0	0.00%	2017年6月末現在

4. 就職状況（第1期生～）

クラス	卒業者	就職希望者	就職内定者	卒業者就職率	希望者就職率
13JL	20	16	16	80.00%	100.00%
14JL	11	8	8	72.73%	100.00%
15JL	10	8	8	80.00%	100.00%

第 1 回学校関係者評価委員会 分野別分科会 議事録

開催日時： 平成 29 年 7 月 3 日（月） 15：40～17：00

場 所： 1022 教室

分 野： 電気分野

学 科： 電気工学科

出席者： ①学校関係者評価委員

（企業）舟山 大器 株式会社横浜環境デザイン

PV 事業部 営業戦略室 室長

（合計 1 名）

②日本電子専門学校

山路哲平 電気工学科

（合計 1 名）

- 次 第： 1. 分野別分科会の目的と議事進行について
2. 昨年度の教育活動実績報告（資格取得、オリジナル教材、就職、ドロップアウトの状況）
3. 意見交換
4. その他

議 事： 議題 1 昨年度の教育活動実績について

<内容>

・目標資格の取得状況について

第 1 種電気工事士(入学前取得者含む)

15KJ：31/51 名 (61%)、16KJ 24/39 名 (62%)

15KZ：13/19 名 (68%)、16KZ 6/12 名 (50%)

第 2 種電気工事士(入学前取得者含む)

15KJ：38/51 名 (75%)、16KJ 33/39 名 (85%)

第 3 種電気主任技術者(入学前取得者含む)

15KJ：5/51 名 (10%)、16KJ 1/39 名 (2%)

・オリジナル教材の充実度

実習科目 5 科目に対してオリジナル教材を作成したのは 5 科目となり、100%達成している。

・ドロップアウト状況

15kj：54 名→51 名（2 名：今行っているアルバイト先にそのまま就職

1 名：経済的理由により休学し、次年度夜間部電気工事士科入学）

16kj：45 名→39 名（2 名：留学生で帰国し就職、1 名：情報処理科へ進路変更し入学

2 名：病気療養により退学、1 名：今行っているアルバイト先にそのまま就職）

・就職状況

15kj：51 名→49 名内定就職、2 名：帰国し就職 進路決定率 100%達成

16kj：39 名→39 名内定(6 月末に全員決定)

<意見>

○資格について

・電験三種（及び二種）を取得している技術者の平均年収を調べて学生に伝えることで、取得することによる利点を理解させ、勉強に対する意欲の増加が見込まれるとの意見をいただき、企業における資格手当について学生に教えることも、学生の勉強意欲の向上につながると思われる。

また、企業ごとの資格手当の有無は、技術職の扱いかたとも取れるため、仕事を選ぶ上でもこの手当については教えておくとよいと思う。

以上をまとめて、学生に数年後に向けたロードマップを書かせることができれば、より学生の学習意欲と資格取得率の向上につながるのではないかと意見をいただいた。

○オリジナル教材について

・現状十分に取り組まれているとの意見をいただいたが、理解を促進するオリジナル教材については、学生が実際に作るという機会を設けられると、学習効果がより高まるとの意見をいただいた。

○ドロップアウトについて

・パーセンテージの多少の誤差は生じるため、数値に一喜一憂するよりも、現状しっかりと通学している学生のケアを引き続きしっかりとやる方がよいとの意見をいただいた。

○就職について

・卒業生の離職率についての調査を行い、卒業後の人生が充実できることが伝えられれば、外部の人には魅力的に見えると思う。

また中小企業に短期間に内定を決めるのも学生の自由ですが、社長の退陣など会社の解散のリスクは大きいことなどをしっかり教育することで、多少なりとも経済的、社会的に存続していく会社なのかを判断できるように教育することは、学生のためになるではとの意見をいただいた。

まとめ: 今まで行っていることに間違いはないが、資格取得は社会人になってからの意味を持たせ、より積極的な資格取得に向けて指導を行い、就職は、就職率 100%は当たり前という段階になっていると判断できるので、今後は上場している、存続可能性が高いといった、外部の入学志望者から見て魅力的な企業に学生を就職させることを目標として指導を行っていければよいと思う。

以上

第 1 回学校関係者評価委員会 分野別分科会 議事録

開催日時： 平成 29 年 7 月 3 日（月） 15：40～17：00

場 所： 10 号館 2 階 1022 教室

分 野： 電気分野

学 科： 電気工事技術科

出席者： ①学校関係者評価委員

（企業） 舟山 大器 株式会社横浜環境デザイン

PV 事業部 営業戦略室 室長

（合計 1 名）

②日本電子専門学校

高橋 俊幸 電気工事技術科 学科長

（合計 1 名）

次 第： 1. 分野別分科会の目的と議事進行について

2. 昨年度の教育活動実績報告（資格取得、オリジナル教材、就職、ドロップアウトの状況）

3. 意見交換

4. その他

議 事： 議題 1 昨年度の教育活動実績について

<意見>

・昨年度の教育活動として、目標資格取得について概ね問題がないとの意見を受けたが、学生に対して資格取得のメリット（目的）を明確にすることで意識を高めることができるのではと意見を頂いた。その他、可能であれば労働安全講習にある高所作業車、玉掛け作業車、フォークリフト運転作業車の講習を検討したらとの意見を頂いた。オリジナル教材については、実習科目を中心に作成してあるので問題がないとの意見を受けたが、継続して内容の確認が必要との意見を頂いた。

ドロップアウト状況については、現状としては概ね問題がないとの意見を受けたが、入学前の学科選択の確認を広報部、総務部等と連携することにより、より減少（落ちこぼれがないプロセス）させることができるのではないかと意見を頂いた。

就職状況については、就職率 100% と特に問題がないとの意見を受けたが、工事会社・施工管理会社等と連携して 1 年生の時期に説明会や企業訪問の機会を増やし、就職先企業の選択肢を広げる取り組みを強化したらとの意見を頂いた。

ま と め： 昨年度の教育活動については、全体的に問題がないとの意見を受けたが、資格取得で意見を頂いた意識を高める取り組み、ドロップアウト対策として意見を頂いた落ちこぼれないプロセスを特に入学前に他部署と連携し取り組み、更に学生の就職活動の満足度を高める取り組みを今年度の教育活動に取り入れ、適切に実施していきたい。

以上

第 1 回学校関係者評価委員会 分野別分科会 議事録

開催日時： 平成 29 年 7 月 3 日（月） 15：40～17：00

場 所： 791 実習教室

分 野： 電子分野

学 科： 電子応用工学科

出席者： ①学校関係者評価委員

（企業）米井 翔 一般社団法人 組込みシステム技術協会
人材育成事業本部 研修委員会 委員

（合計 1 名）

②日本電子専門学校

木下 稔雅 電子応用工学科 学科長

仲田 英起 電子応用工学科 テクニカルチーフ

（合計 2 名）

- 次 第： 1. 分野別分科会の目的と議事進行について
2. 昨年度の教育活動実績報告（資格取得、オリジナル教材、就職、ドロップアウトの状況）
3. 意見交換
4. その他

議 事： 議題 1 昨年度の教育活動実績について「資格取得」

<意見>

- ・「第二級陸上特殊無線技士」の資格取得は良い。
- ・ネットワーク技術が必要となるので、CCENT 資格(シスコ社)等を検討すると良い。
- ・IoT システムが増えるので「IoT システム技術検定」(MCPC)等を検討すると良い。

議題 2 昨年度の教育活動実績について「オリジナル教材」

<意見>

- ・オリジナルマイコン KIT は、ハンダ付によって作りながら学ぶのでとても良い。
企業ではハンダ付けの機会がほとんどなく、貴重な経験である。授業でのハンダ付けが最後になるかもしれない。また、ハードウェアを理解しながらのプログラミングが良い。
- ・授業の一部で「Active Learning」による電子分野の問題解決を行うと良い。
例えば 1 駒目に課題の予習を行い、2 駒目に「Active Learning」を行うなどの案がある。

議題 3 昨年度の教育活動実績について「就職」

<意見>

- ・昨年度の内定先企業以外にも、組込みシステム分野での求人企業は多くある。これらの企業による業界説明等を授業の一部として行うのも良い。
- ・学科で職業教育協定の契約を進めている「日本システム開発株式会社」は、実力や信頼が高い企業なので、連携を深めて行くと良い。

議題 4 昨年度の教育活動実績について「ドロップアウトの状況」

<意見>

- ・進級・卒業率は、無試験入学なので良いと思う。
- ・学科としてのドロップアウト対策は良い内容である。

ま と め： 分科会を通して、ネットワーク技術の必要性、システムの IoT 化など、企業の第一線から見た現状や動向を知ることができて有意義であった。さらに、評価委員から頂いた上記の各意見を今後の教育活動に活かすために検討していく。

以上

平成 29 年 7 月 3 日
日本電子専門学校
電子応用工学科
科長 木下稔雅

1. 目標資格の取得状況(平成 28 年度)

(1) 「第二級陸上特殊無線技士」(総務省)

- 授業の一環で実施する講習会と試験を通して取得。
- 取得率
1 年生(16EO) : 90% 合格者/在籍者=28 名/31 名
2 年生(15EO) : 95% 合格者/在籍者=19 名/20 名
- 16EO の不合格者は、本年度に再受講予定

(2) 消防設備士 取得学生なし

(3) X 線作業主任者 取得学生なし

2. オリジナル教材の充実度

(1) オリジナルマイコン KIT

- H8 マイコンボードの拡張ボード
(液晶表示, LED, スイッチ, スピーカ等を実装)
- 組込システム, マイコン等の授業で活用
- 企業との共同開発
- ハンダ付け組立



(2) 各種授業のテキスト

- C 言語, マイコン, 数学, ラズベリーパイ関連
- 授業内で市販テキストと共用して活用

(3) 組込みデータベース

- EMPRESS JAPAN SOFTWARE 社の組込み用 SQL-DB の学習
- 同社の社会人向け資料を学生向けにアレンジ
- Raspberry Pi 上で動作し, PC よりリモート接続で操作
- 平成 28 年度は 16 時間の実習, 平成 30 年度に正式授業 (2 年次後期) として導入予定。

3. ドロップアウト状況

(1) 進級・卒業率(平成 28 年度)

- 1 年生 (16EO) 94% 進級者/入学者=29 名/31 名
- 2 年生 (15EO) 87% 卒業者/進級者=20 名/23 名

(2) 年間出席率(平成 28 年度)

- 1 年生 (16EO) 前期：90% 後期：91%
- 2 年生 (15EO) 前期：83% 後期：83%卒業者/進級者=20 名/23 名

(3) ドロップアウト対策 (別紙 1 参照)

- 楽しく元気に学園生活を送る
- きめ細かい欠席対応
- オープン実習による落ちこぼれ，浮きこぼれ対策
- 教員間での授業進捗，学生状況の共有
- 保護者との連携

4. 就職状況

(1) 内定率(平成 28 年度) 95% 内定者/在籍者=19 名/20 名

(2) 内定先企業

就職先	国籍	学歴
UT グループ株式会社		
サンコー・エア・セルテック株式会社	ベトナム	
株式会社CAICA	韓国	
株式会社アウトソーシング		
株式会社コスモ		
株式会社コスモ		大学卒
株式会社スタッフサービスエンジニアリング事業本部	台湾	大学卒
株式会社トラスト・テック	韓国	大学休学中
株式会社トラスト・テック		
株式会社トラスト・テック		
株式会社トラスト・テック		
株式会社トラスト・テック	ベトナム	短大卒
株式会社フェニックスエンジニアリング		
株式会社東燁	中国	
大成技研株式会社		
東洋エンジニアリング株式会社		大学中退
日本テクノストラクチャ株式会社		大学卒

以上

キャリアセンター長殿

電子応用工学科のドロップアウト対策

平成 29 年 4 月 26 日

電子応用工学科

木下稔雅

学科教員と相談して、平成 29 年度のドロップアウト対策を下記にしました。

記

1. 楽しい学園生活を過ごす

- 学園生活が楽しければ、学生は積極的に登校する
 - ✓ 教員は明るく元気に学生と接する。
- 学生に「質問することは良いことで、恥ずかしくない」と分からせる。
 - ✓ 各教員から学生へ常に伝える。

2. 遅刻・欠席対応

- (1) 欠席当日(担任判断)に学生と連絡(メール, 電話等)し、状況を把握する。
 - 欠席学生に対して、担任・教員が常に気にかけていることを感じさせる。
- (2) 遅刻・欠席する時は、事前連絡をするように指導する。
 - 社会人の常識であり、学生時代の練習である旨を学生へ伝える。
- (3) 数日(担任判断)の連続欠席は、保護者に状況を伝える。
 - 電話, メール, 手紙等を利用し、早く・確実に伝わる方法で実施する。
- (4) 問題のある欠席学生は、キャリアセンターと連携する。
- (5) 四半期又は半期に、出席状況票を学生に配布し、自身の状況を把握させる。
 - 社会人に必要な自己管理の練習とする。

3. オープン実習による対策

- (1) 落ちこぼれ対策
 - 授業の復習や不明点を質問する場とする。
- (2) 浮きこぼれ対策
 - コンテスト参加の製作や独自試作の場とする。
 - 質問のある学生への対応を行わせる(上手に教えることで、多くを学べる)。

4. 情報共有の定例会を毎週実施

- 非常勤講師を含め、1年生の科目担当者による科目間の情報交換を毎週実施する。

5. 保護者に担任等の連絡先を伝える(保護者会, 定期的な郵送に含める)

以上

第 1 回学校関係者評価委員会 分野別分科会 議事録

開催日時： 平成 29 年 7 月 3 日（月） 15：40～17：00

場 所： 各実習教室及び座学教室

分 野： ゲーム分野

学 科： ゲーム制作科

出席者： ①学校関係者評価委員

（企業）石本 則子 株式会社スタジオフェイク
代表取締役

井沢 祐 株式会社スタジオフェイク
研究開発部 ディレクター

（合計 2 名）

②日本電子専門学校

松島 秀夫 ゲーム制作科 学科長

小柳 圭司 ゲーム制作科 テクニカルチーフ

（合計 2 名）

- 次 第： 1. 分野別分科会の目的と議事進行について
2. 昨年度の教育活動実績報告（資格取得、オリジナル教材、就職、ドロップアウトの状況）
3. 意見交換
4. その他

議 事： 議題 1 昨年度の教育活動実績について

<意見>

- ・資格取得率が 90%を超えているが、やはり 100%を目指すべきである。そのためにも対策授業を増やしてはどうか？さらにレベルに合わせた試験の受験も検討してはどうか？
- ・言われるままの教材では上手くいかない。情熱と自信を持って作成してほしい。既存の授業評価システムにはない数値では測れないものがゲームでは必要になることも多い。
- ・

議題 2 学生作品制作に関して

<意見>

- ・毎年東京ゲームショウに学生作品を出展しているが、学内でのコンテストを実施してはどうか？それらを通して学生や教員のモチベーションの向上を図ってはどうか？
- ・教員が学科を超えて学生作品の指揮を執る特別プロジェクトを行うことも考えてほしい。他校では、ゲームコンテスト用にそういったプロジェクトをしている。さらに、学生が就職すると、目上とチームを組むことになる。学生同士のチームより、教員とチームを組むプロジェクトを考えてもいいのではないか？
- ・先生もクリエイターであるという意識を持ってほしい。

ま と め： 今回の分科会では、一昨年までの状況と今年度の学科・分野の取り組みについて報告・議論を行った。その中でも学生のモチベーションが議論の中心になった。本校では東京ゲームショウには力を入れているが、それ以外のコンテストにも力を入れるべきではないか？また、他学科、他分野を巻き込んだ学内のコンテストも検討してはどうかとの意見も戴いた。そのため、学生へのコンテストの告知を積極的に行い、まずは分野のコンテストを検討したいと考えている。

以上

第1回学校関係者評価委員会 分野別分科会 議事録

開催日時： 平成29年7月3日（月）15：40～17：00

場 所： 各実習教室及び座学教室

分 野： ゲーム分野

学 科： ゲーム制作研究科

出席者： ①学校関係者評価委員

（企業）石本 則子 株式会社スタジオフェイク
代表取締役

井沢 祐 株式会社スタジオフェイク
研究開発部 ディレクター

（合計2名）

②日本電子専門学校

井上 直樹 ゲーム制作研究科／ゲーム企画科 学科長

（合計1名）

- 次 第：
1. 分野別分科会の目的と議事進行について
 2. 昨年度の教育活動実績報告（資格取得、オリジナル教材、就職、ドロップアウトの状況）
 3. 意見交換
 4. その他

議 事： 議題1 昨年度の教育活動実績について

<意見>

- ・目標資格取得率は90%台だが、やはり100%を目指してもらいたい。合格するまで試験を受けさせるのは当然として、もっと対策授業を行うべき。
さらにレベルに合わせた試験の受験も検討してはどうか？
- ・情熱と自信を持って作成してほしい。ゲームはテキスト化するのはとても難しいので、オリジナル教材の基準を資料だけでも可などと分野で決めてもいいのでは。既存の授業評価システムにはない、数値で測れないものがゲームには必要になることも多い。だから、過程も重要にできる誠実な教材であってほしい。
- ・ドロップアウト状況にある発達障害など手が回らないことが多いのはわかるが、関係部署に対応リクエストをだすべき。下がる学生などは、キャリアセンターなどに対応を任せないと専門学校の先生の出すべきところで出すことが出来なくなる。プロでも現場の人間にサポートはやらせていない。

議題2 学生作品制作・コンテスト等のアウトプットに関して

<意見>

- ・教員が学科を超えて学生作品の指揮を執る特別プロジェクトを実施するのはどうか。学生が就職すると、目上とチームを組むことになる。学生同士のチームより、教員と組むことで学ぶことも多いのではないか。年間で学校内（ゲーム学科内）の全作品コンテストを開催するのは教員・学生双方のモチベーション維持に役立つのではないか。
- ・先生もクリエイターであるという意識を持ってほしい。

ま と め： 今回の分科会では、一昨年までの状況と今年度の学科・分野の取り組みについて報告・議論を行った。その中でも学生のモチベーションが議論の中心になった。本校では東京ゲームショウには力を入れているが、それ以外のコンテストにも力を入れるべきではないか？また、他学科、他分野を巻き込んだ学内のコンテストも検討してはどうかとの意見も戴いた。そのため、学生へのコンテストの告知を積極的に行い、まずは分野のコンテストを検討したいと考えている。

以上

第 1 回学校関係者評価委員会 分野別分科会 議事録

開催日時： 平成 29 年 7 月 3 日（月） 15：40～17：00

場 所： 各実習教室及び座学教室

分 野： ゲーム分野

学 科： ゲーム企画科

出席者： ①学校関係者評価委員

（企業）石本 則子 株式会社スタジオフェイク
代表取締役

井沢 祐 株式会社スタジオフェイク
研究開発部 ディレクター

（合計 2 名）

②日本電子専門学校

井上 直樹 ゲーム制作研究科／ゲーム企画科 学科長

（合計 1 名）

- 次 第：
1. 分野別分科会の目的と議事進行について
 2. 昨年度の教育活動実績報告（資格取得、オリジナル教材、就職、ドロップアウトの状況）
 3. 意見交換
 4. その他

議 事： 議題 1 昨年度の教育活動実績について

<意見>

- ・目標資格取得率は 90% 台だが、やはり 100% を目指してもらいたい。合格するまで試験を受けさせるのは当然。さらにレベルに合わせた試験の受験も検討してはどうか。
- ・情熱と自信を持って作成してほしい。ゲームはテキスト化するのはとても難しいので、オリジナル教材の基準を資料だけでも可などと分野で決めてもいいのでは。既存の授業評価システムにはない、数値で測れないものがゲームには必要になる。だから、過程も重要にできる誠実な教材であってほしい。
- ・ドロップアウト状況にある発達障害など手が回らないことが多いのはわかるが、関係部署に対応リクエストをだすべき。下がる学生などは、キャリアセンターなどに対応を任せないと専門学校の先生の出すべきところで出すことが出来なくなる。プロでも現場の人間にサポートはやらせていない。

議題 2 学生作品制作・コンテスト等のアウトプットに関して

<意見>

- ・教員が学科を超えて学生作品の指揮を執る特別プロジェクトを実施するのはどうか。学生が就職すると、目上とチームを組むことになる。年間で学校内（分野内）の全作品コンテストを開催するのは教員・学生双方のモチベーション維持に役立つのではないか。
- ・先生もクリエイターであるという意識を持ってほしい。
- ・プランナーとして「まずやってみよう！！」のモチベーションから教育を行うべき。何か創ろうプロジェクトなど目標感・達成感を得られる取り組みが必要。

ま と め： 今回の分科会では、学科や分野の取り組みや今回の議題から分野としての新しい取り組みへの意見を多数いただくことが出来た。特に、教員と学生の関係についてや学内での取り組みについていただいた意見は正直驚いた。すぐにでもいただいた意見を実践に移すため積極的に検討していきたい。

以上

第 1 回学校関係者評価委員会 分野別分科会 議事録

開催日時： 平成 29 年 7 月 3 日（月） 15：40～17：00

場 所： 171 教室

分 野： アニメ分野

学 科： アニメーション科

出席者： ①学校関係者評価委員

（企業）浅賀 央起 株式会社 ぴえろ
執行役員 総務人事部 部長

（合計 1 名）

②日本電子専門学校

坪井 翔 アニメーション科 学科長
工藤 陽輔 アニメーション研究科 テクニカルチーフ

（合計 2 名）

- 次 第： 1. 分野別分科会の目的と議事進行について
2. 昨年度の教育活動実績報告（資格取得、オリジナル教材、就職、ドロップアウトの状況）
3. 意見交換
4. その他

議 事： 議題 1 昨年度の教育活動実績について

<意見>

- ・企業と連携した作品の制作は社会に出てからの力になるので良いと思う
- ・学校として資格を取らせる取り組みは良いと思う。今後は取得率を上げてもらいたい
- ・専門学校としてのディプロマポリシーを明確に設定してほしい（大学の多くは曖昧である）

議題 2 資格について

<意見>

- ・仮にドロップアウトしたあとにも活用できる資格を取れると良い。
例えば、コンピューター技術者検定、ビジネス検定の方がよいのでは？

議題 3 学校と企業の連携事業、取り組みについて

<意見>

- ・新幹線の車内で流れるミニムービーのような企画でアニメの制作が出来ると思う
- ・ラインを決めてお手伝いができることがあれば、テレビ作品でも何かしら連携が出来ると思う

その他 なし

ま と め： 本校のアニメ系学科の教育に対して、例年通り概ね賛成を頂けた。質・量ともに適切なカリキュラムが組んでいるとの評価であった。作品制作を通して産学連携の機会を今後増やせると良いとの要望が有り、今後、関係企業とともに模索したい。業界全体で導入・研究が進むデジタル作画では、本校は早くから設備の導入が実施されており、企業やクリエイターを招致してのセミナーも積極的に行っているため、委員の要望の通り今後も精力的に機会を増やして行きたい。

以上

第1回学校関係者評価委員会 分野別分科会 議事録

開催日時： 平成29年7月3日（月）15：40～17：00

場 所： 171 教室

分 野： アニメ分野

学 科： アニメーション研究科

出席者： ①学校関係者評価委員

（企業）浅賀 央起 株式会社 ぴえろ
執行役員 総務人事部 部長

（合計1名）

②日本電子専門学校

坪井 翔 アニメーション科 学科長
工藤 陽輔 アニメーション研究科 テクニカルチーフ

（合計2名）

- 次 第：
1. 分野別分科会の目的と議事進行について
 2. 昨年度の教育活動実績報告（資格取得、オリジナル教材、就職、ドロップアウトの状況）
 3. 意見交換
 4. その他

議 事： 議題1 昨年度の教育活動実績について

<意見>

- ・他校ではデッサンやポートフォリオが中心になるもののデジタルにも注力してほしい
- ・学校として資格を取らせる取り組みは良いと思う。今後は取得率を上げてもらいたい
- ・専門学校としてのディプロマポリシーを明確に設定してほしい（大学の多くは曖昧である）
- ・採用状況3年は大学が多いが離職率が高い。シロバコを見て、ある種の妄想だけで入社してしまい、働き出してからそのギャップに気が付く。

議題2 資格について

<意見>

- ・仮にドロップアウトしたあとにも活用できる資格を取れると良い。
例えば、コンピューター技術者検定、ビジネス検定の方がよいのでは？

議題3 学校と企業の連携事業、取り組みについて

<意見>

- ・企業の新人教育担当者を学校にインターンシップとして教授法など教える場、教える経験を積む取り組みがあると双方にメリットが出てくる。

その他 なし

ま と め： 本校のアニメ系学科の教育に対して、例年通り概ね賛成を頂けた。質・量ともに適切なカリキュラムが組んでいるとの評価であった。作品制作を通して産学連携の機会を今後増やせると良いとの要望が有り、今後、関係企業とともに模索したい。業界全体で導入・研究が進むデジタル作画では、本校は早くから設備の導入が実施されており、企業やクリエイターを招致してのセミナーも積極的に行っているため、委員の要望の通り今後も精力的に機会を増やして行きたい。

以上

第 1 回学校関係者評価委員会 分野別分科会 議事録

開催日時： 平成 29 年 7 月 3 日（月） 15：40～17：00

場 所： 1B14 教室

分 野： デザイン分野

学 科： Web デザイン科

出席者： ①学校関係者評価委員
(企業) 川崎 紀弘 株式会社コンセント

(合計 1 名)

②日本電子専門学校

小山内 靖美 Web デザイン科 学科長

関根 慎二 Web デザイン科 テクニカルチーフ

(合計 2 名)

- 次 第：
1. 分野別分科会の目的と議事進行について
 2. 昨年度の各学科の主な教育活動について報告
 3. 意見交換
 4. その他

議 事： 議題 1 昨年度の主な教育活動について

<意見>

- ・先生が出席指導や生活指導などのドロップアウト対策をやり過ぎるのではないか。
- ・複合的な学校の意味、意義を考えると、IoT などの他学科とのコラボは良いと思う。

議題 2 募集人数減少について

<意見>

- ・Web 業界はブラックのイメージがあり、また仕事内容が分かり難いことが多くなっているため、高校生に理解できないのではないか。
- ・仕事内容はビジネス色が強くなっていて、華やかさがなくなり楽しさが伝わらない。
- ・Web 業界では、少人数で起業し仕事を行うことができる可能性を秘めていることを伝えてはどうか？

議題 3 アクティブラーニングについて

<意見>

- ・アクティブラーニングは、学生の精神がアクティブになっていないと難しいのでは？
- ・高等教育機関では学びのスタイルを変更するなどの工夫が必要であり、例えば、カッコ良く、スタイリッシュに学べるような隠れ家的な部屋があっても良いのでは。

その他 他学科との取り組みについて

<意見>

- ・デザイン学科以外の学科は、ソフトウェア開発において要件を満たすことを中心とする考えがあるため機能に走りがちになる。他学科との取り組みでは、コンテンツと機能を融合させるためにも柔軟性のあるデザイン学科は積極的に取り組んだ方がよい。

ま と め： 複合的な学校として、学科間の壁を超えた取り組みを積極的に行うことで、他校にはない強みを発揮する可能性があることが分かった。そのためにも、各専門的な技術・知識を持った人たちが学び合いながら新しい価値を生み出すことができる場所としてラーニング・コモンズを進める必要があると感じた。

以上

第 1 回学校関係者評価委員会 分野別分科会 議事録

開催日時： 平成 29 年 7 月 3 日（月） 15：40～17：00
場 所： 1B14 教室
分 野： デザイン分野
学 科： グラフィックデザイン科
出席者： ①学校関係者評価委員
(企業) 川崎 紀弘 株式会社コンセント

(合計 1 名)

②日本電子専門学校
植田 誠一 グラフィックデザイン科 学科長

(合計 1 名)

次 第： 1. 分野別分科会の目的と議事進行について
2. 昨年度の教育活動実績報告（資格取得、オリジナル教材、就職、ドロップアウトの状況）
3. 意見交換
4. その他

議 事： 議題 1 昨年度の教育活動実績について
<意見>

- ・資格試験（Adobe 認定アソシエイト Photoshop）に関して Illustrator と比較した合格率の低さは、学生の Photoshop でのイラスト作成の意識が高く、デザインとしての画像補正に対応できていないのではないかと？
- ・ドロップアウト対策として、比較的多数のドロップアウトに関連性の無い学生からしてみればその対策自体を嫌い、ドロップアウトに繋がっているのではないかと。
→JECWEEK 期間中の内容などを今一度見直す必要性。
- ・オリジナル教材のブラッシュアップに関して
→移り変わりの早い業界だからこそ、オリジナル教材に関しても常に更新できる媒体や、その意識が必要。
- ・グラフィックデザイン科の就職に関しては、近年、過去の実績の無い新規内定企業にも決まっている傾向は非常に良い。
職種に加え、その企業で具体的にどのような業務、制作物に取り組んでいるか、企業研究が必要。
- ・昨年度分科会の議題として挙げた、他学科間コラボに関して、昨年度は「IoT プロジェクト (D2C)」や「TOKYO DESIGN WEEK2017」等に取り組めた結果は良く、今後もそのような活動を進めていくべき。
→昨年の TOKYO DESIGN WEEK2017 の事故を事例に、アート、デザイン隔てなく、すべての公共の作品において、人が触れる以上、その安全性を問う時代。アート作品でも、「自由」では無く、五感で認識するターゲットのことを考えた「デザインの思考」が求められている。

議題 2 デザイン系学科募集面に関して
<意見>

- ・デザインの上流工程や調査も大事なことだが、入学対象者には、デザインの「楽しさ」をもっと伝える必要があるのではないかと。
→デザイン教育が「コンテンツ」より「技術・機能」に行きがちの傾向。
→・デザインの学び方に関して

→学びのスタイルとして美術・図工色の延長にある「デザイン」はアクティブラーニングをしやすい。しかし、意識的に小・中・高校でアクティブラーニングを日本で定着するには、日本の学業精神や教科書の存在により、難しいのでは。今後、小・中・高校で定着し次第、高等教育機関でもデザイン教育の在り方が今以上に変わってくるのでは。

ま と め: 今回の分科会により、多くの取り組みを行っているデザイン系学科の方向性や、意識する点に関して再確認することができた。時代と共にデザイナーもユーザーも提供スタイル、受け取り方が変化している昨今、技術教育はもちろんのこと土台にあるコンテンツの楽しさや伝え方などの発想を強化する教育内容も今後再検討の余地があると認識できた。教育内容、それに伴う設備に関して今回の分科会で頂いた意見を参考にしていきたい。

資格試験に関しては合格率を向上させるために既存の対策に加え、科目担当者と連携し合格率向上に向けた対策を検討していきたい。

現状にとどまらず、今後のデザイン教育を考えるという意味でも有意義な分科会になったと感じている。

以上

第 1 回学校関係者評価委員会 分野別分科会 議事録

開催日時： 平成 29 年 7 月 3 日（月） 15：40～17：00

場 所： 431 教室

分 野： CG 分野

学 科： コンピュータグラフィックス科

出席者： ①学校関係者評価委員

（企業）宮井 あゆみ

CG-ARTS 協会

公益財団法人 画像情報教育振興協会

事務局長

新 和也

オートデスク株式会社

メディア&エンターテインメント セールスマネージャー

（合計 2 名）

②日本電子専門学校

五十嵐 淳之 コンピュータグラフィックス科 学科長

（合計 1 名）

- 次 第： 1. 分野別分科会の目的と議事進行について
2. 昨年度の教育活動実績報告（資格取得、オリジナル教材、就職、ドロップアウトの状況）
3. 意見交換
4. その他

議 事： 議題 1 昨年度の教育活動実績について

<資格取得状況について>

- ・現在はビジネス能力検定ジョブパス 3 級の取得を目標としているが、本科も CG クリエイター検定エキスパートの取得を目標とさせてもよいのではないか。
- ・就職活動時に基本的なビジネスマナーが身についているという「質保証」ができることを考えると、ビジネス能力検定も有効であるとの説明を受け納得したが、全体報告の際に、なぜクリエイター分野の学科にビジネス能力検定を受けさせているのか説明してほしかった。専門領域がずれているように感じてしまった。
- ・CG 映像制作科は、ビジネス能力検定に加えて CG クリエイター検定エキスパートも目標資格に入っている。同じ CG 分野の 2 年制学科同士で、目標とする資格が違っているのは好ましくないようにも思われる。ビジネス能力検定は取得率 100%を目指し、それ以外に CG クリエイター検定を受験するよう指導してはどうか。

<オリジナル教材について>

- ・分野の特性を考えると、紙ベースでのオリジナル教材作成は難しい。年度の途中で最新情報を追加する必要があるなど、印刷物として教材を作成するのは難しい分野なので、Web 教材やその都度必要なページを印刷して配布、といったスタイルでよいと思う。
- ・これだけの数のオリジナル教材があるのはすごい、十分ではないか。
- ・学生の満足度を考えると、市販の書籍よりもオリジナル教材の方がよいが、分野により教材が作りやすい、作りにくいというのはあると思う。
- ・一度教材を作ってしまうと、アップデートが大変ではないか。Maya も年に 1 回バージョンアップがあり、その都度機能が追加・変更されたり、インターフェイスが刷新されたりするので、教材作成も大変であると思う。だが、教材開発が間に合わないがゆえに、新しいツールの授業への導入を見送るといったことはしてほしくない。100%オリジナル教材でなくとも、たとえば 70%以上がオリジナル教材であればよしとしてはどうか。

<ドロップアウト状況について>

- ・担任とキャリアサポーターの2名体制でホームルームを実施しているのは、非常に手厚いと感じる。
- ・ドロップアウトを防ぐためには、学生個々をしっかりと見てあげること、日々成長を感じさせてあげること、「学校にいる意味」を作ってあげることが必要である。個人的には自分の意思で入学した専門学校なので、そこまでサポートしなくてもよいのではないかととも思うが、学校としてしっかりと面倒を見ると決めているのであれば、面倒を見続けるしかないであろう。残暑見舞いなど、かなり手厚い、ともすると過保護なイメージもある。
- ・他と比較してCG系学科のドロップアウト率が高いのは、ある意味仕方がないと考える。CGを詳しく知らずに入学し、勉強してみたら「こんなに難しいとは思わなかった」という学生も多いはずである。どうしても周囲と比較してしまう、映像などを見てすごいCGを作れることは知っているが、実際に自分では作れないなど、くじけてしまう要因が多い。
- ・CGを作れなくてもCG系企業で仕事をすることは十分可能なので、CGを苦手としている学生を早期に発見し、クリエイター以外でCG業界への就職を目指す指導をしてはどうか。
- ・クラス担任と専門教科を教える教員が同じケースと別々のケースがある。密に接する時間の長短がクラスごとのドロップアウト率の違いに影響しているのではないかと。

<就職状況について>

- ・これだけの数の学生をCG業界に送り出しているのは本当にすごい。業界に就職できるのはせいぜい半分くらいと思っていたので、正直驚いた。当時は10%ほどしかエンタテインメント業界に就職できなかったことを考えると、CGのニーズも相当増加しているであろう。
- ・スマホ・モバイル関連の企業への就職が少ないように思う。CGクリエイターが必要だがCGには全く詳しくないといった企業が相当数存在するので、リサーチに力を入れてはどうか。建築、製造など、あらゆる分野でCGのニーズがある。そのような企業では、さほど高いクオリティが求められてはいないので、学生にとっては就職の大きなチャンスになりうる。

まとめ: オリジナル教材や就職の状況について、一定の評価をいただくことができ安心した。一方で、ドロップアウト対策については、一定数のドロップアウトは仕方がないとしても、個々の学生状況をしっかりと把握し、CGに対して苦手意識を持ってしまった学生に対する早期指導を実施することで改善が見込めるとのご指摘をいただいた。また、資格取得についても、やはり専門分野に直結した「CGクリエイター検定」などの取得を目標にすべきであるとのご意見もいただいた。今回評価委員から頂いた意見をもとに学科で検討を行い、今後の教育活動に活用したい。

以上

第 1 回学校関係者評価委員会 分野別分科会 議事録

開催日時： 平成 29 年 7 月 3 日（月） 15：40～17：00

場 所： 431 教室

分 野： CG 分野

学 科： CG 映像制作科

出席者： ①学校関係者評価委員

（企業）宮井 あゆみ

CG-ARTS 協会

公益財団法人 画像情報教育振興協会

事務局長

新 和也

オートデスク株式会社

メディア&エンターテインメント セールスマネージャー

（合計 2 名）

②日本電子専門学校

五十嵐 淳之 CG 映像制作科 学科長

（合計 1 名）

- 次 第： 1. 分野別分科会の目的と議事進行について
2. 昨年度の教育活動実績報告（資格取得、オリジナル教材、就職、ドロップアウトの状況）
3. 意見交換
4. その他

議 事： 議題 1 昨年度の教育活動実績について

<資格取得状況について>

- ・就職活動時に基本的なビジネスマナーが身についているという「質保証」ができることを考えると、ビジネス能力検定も有効であるとの説明を受け、納得した。
- ・他校では、学生のレベルが低くなったことで検定の合格率も下がり、CG クリエイター検定の受験そのものを取りやめてしまったケースもある。CG クリエイター検定のベーシックは合格率 6～7 割で、エキスパートよりも難易度は低いですが、それではだめなのか。
→ 単に合格率を考えればベーシックでよいのかもしれないが、普段の授業ではあまり触れない、印刷など 2D の要素も試験範囲に多く含まれていること、学科の学習内容が 3D 中心であることから、ベーシックではなくエキスパートを受験させている。
- ・一度受験し不合格となった学生に対して、次の機会での受験を勧める等の指導が徹底できていない。また、資格を取得していなくても CG クリエイターとして仕事ができるため資格取得に関心を示さない学生もいる。

<オリジナル教材について>

- ・分野の特性を考えると、紙ベースでのオリジナル教材作成は難しい。年度の途中で最新情報を追加する必要があるなど、印刷物として教材を作成するのは難しい分野なので、Web 教材やその都度必要なページを印刷して配布、といったスタイルでよいと思う。
- ・学生の満足度を考えると、市販の書籍よりもオリジナル教材の方がよい。これだけの数のオリジナル教材があれば十分ではないか。
- ・一度教材を作ってしまうと、アップデートが大変ではないか。Maya も年に 1 回バージョンアップがあり、その都度機能が追加・変更されたり、インターフェイスが刷新されたりするので、教材作成も大変であると思う。だが、教材開発が間に合わないがゆえに、新しいツールの授業への導入を見送るといったことはしてほしくない。100%オリジナル教材でなくとも、たとえば 70%以上がオリジナル教材であればよしとしてはどうか。

<ドロップアウト状況について>

- ・担任とキャリアサポーターの2名体制でホームルームを実施しているのは、非常に手厚いと感じる。
- ・ドロップアウトを防ぐためには、学生個々をしっかりと見てあげること、日々成長を感じさせてあげること、「学校にいる意味」を作ってあげることが必要である。個人的には自分の意思で入学した専門学校なので、そこまでサポートしなくてもよいのではないかととも思うが、学校としてしっかり面倒を見ると決めているのであれば、面倒を見続けるしかないであろう。残暑見舞いなど、かなり手厚い、ともすると過保護なイメージもある。
- ・他と比較してCG系学科のドロップアウト率が高いのはある意味仕方がないと考えるが、改めて見ると、確かに本科のドロップアウト数はやや多いように思う。心的な要因での休退学が増えているようだが、最終的な休退学理由が「心的要因」であったとしても、そこに至った経緯、何が原因でそうなってしまったのかをしっかりと考えると、学科の改善点が見つかるのかもしれない。
- ・グループワークが原因で人間関係が崩れ、ドロップアウトに繋がるケースもあるかもしれないが、グループワークは非常に有効であるので絶対に継続すべきである。グループメンバーを長期間固定しないなどの対策を立てているのはよい。グループワークの大切さ、面白さを、定期的に外部の人間に語ってもらうのもよいのではないかと。
- ・CGが苦手な学生でも、ゲームをし続ける、Youtubeを見続ける元気や集中力はある。学生をいかにそのような状態に持っていけるかがポイントであろう。

<就職状況について>

- ・これだけの数の学生をCG業界に送り出しているのは本当にすごい。業界に就職できるのはせいぜい半分くらいとっていたので、正直驚いた。当時は10%ほどしかエンタテイメント業界に就職できなかったことを考えると、CGのニーズも相当増加しているであろう。
- ・これだけ就職できているのであれば、授業が間違っているとは到底考えられない。もっと良くできる部分があるのかもしれないが、現状これだけの実績を作れているのだから自信を持って良い。
- ・スマホ・モバイル関連の企業への就職が少ないように思う。CGクリエイターが必要だがCGには全く詳しくないといった企業が相当数存在するので、リサーチに力を入れてはどうか。建築、製造など、あらゆる分野でCGのニーズがある。そのような企業では、さほど高いクオリティが求められてはいないので、学生にとっては就職の大きなチャンスになりうる。

ま と め: オリジナル教材や就職の状況について、一定の評価をいただくことができ安心した。資格取得については、難易度が低めでより多くの学生が取得できるであろう「CGクリエイター検定ベーシック」の受験を勧めていただいたが、学科の教育内容と目指す方向性と照らし合わせ、慎重に判断をすることとした。また、ドロップアウト対策については、やはり休退学者数の多さが気になる旨のご指摘をいただいた。最終的には心的要因で休退学をした学生が、そこに至った経緯、何が原因でそうなってしまったのかをしっかりと考えてみることで、学科の改善点が見つかるかもしれないのご指摘をいただいた。

今回評価委員から頂いた意見をもとに学科で検討を行い、今後の教育活動に活用したい。

以上